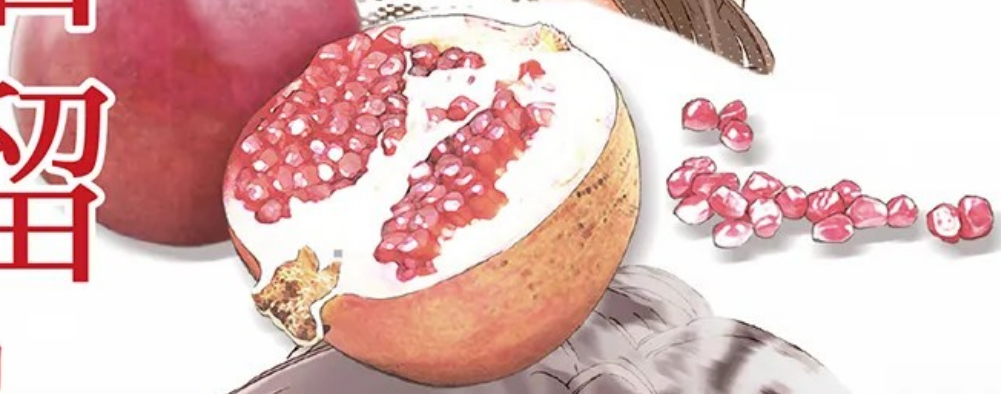
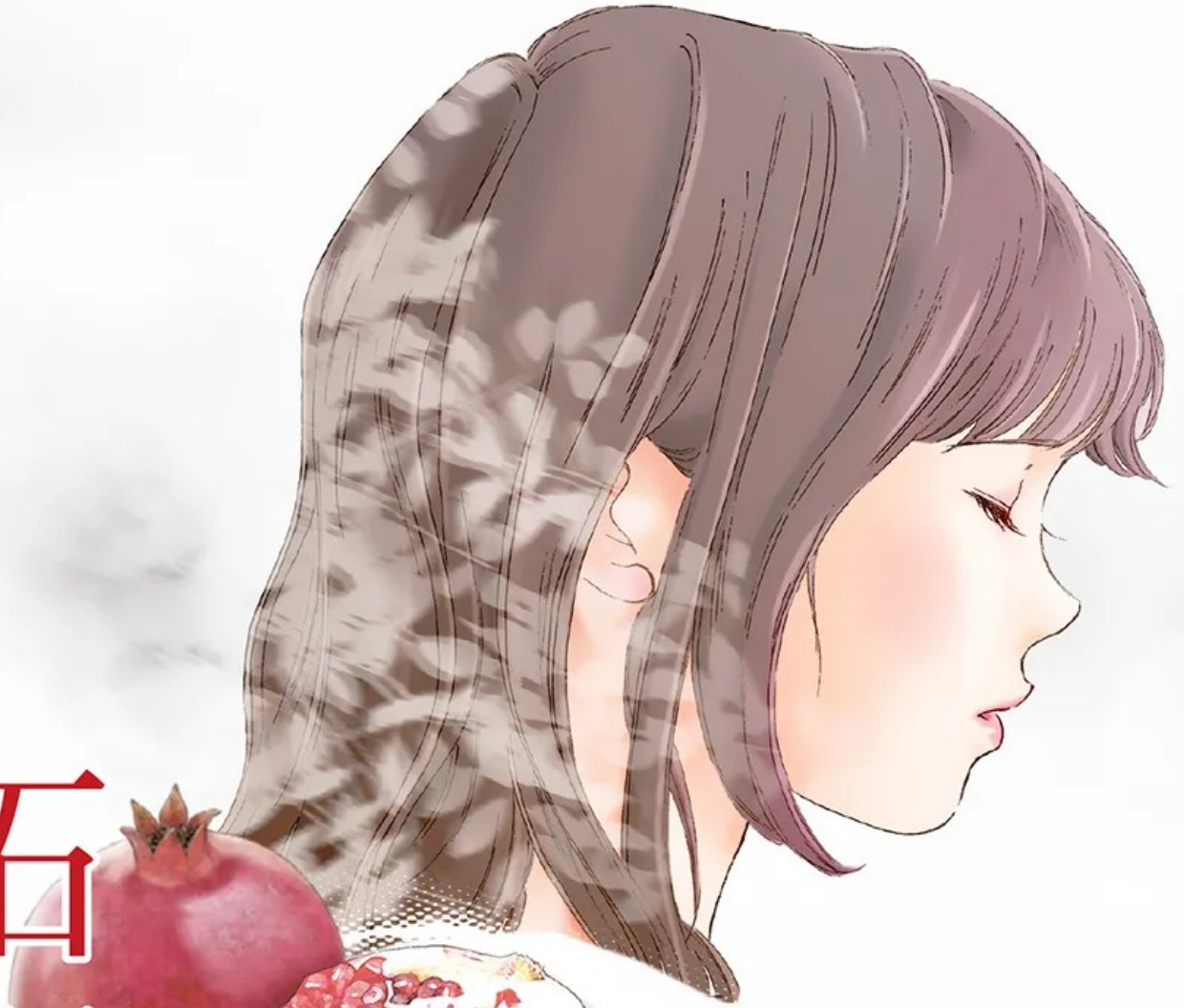


柶榴

ーざくるー



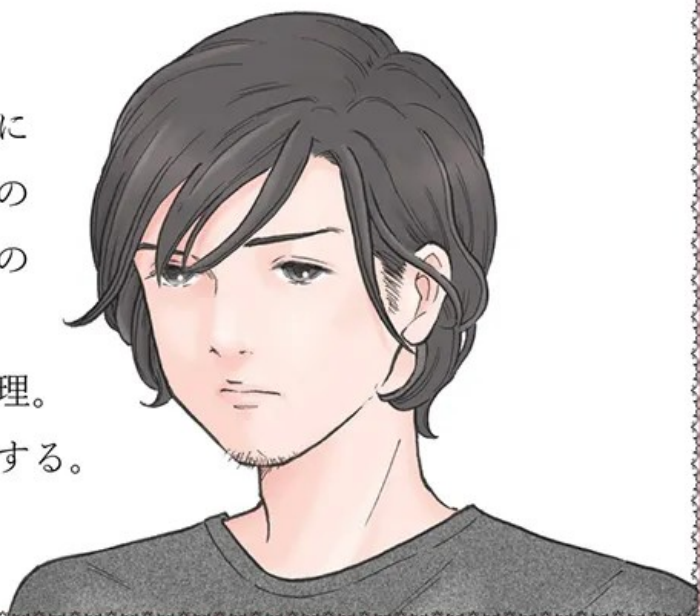
えろしー

DOJIN
Adult only
R18

登場人物

まみやいっぺい
間宮一平 (25 歳)

結婚を考えていた恋人と 2 年前に別れてから自暴自棄になり職場の工場とアパートを往復するだけの無味乾燥な日々を送っている。趣味はストレス発散を兼ねた料理。ユキと出会った事で全てが一変する。性癖までも。



ユキ (年齢不詳)

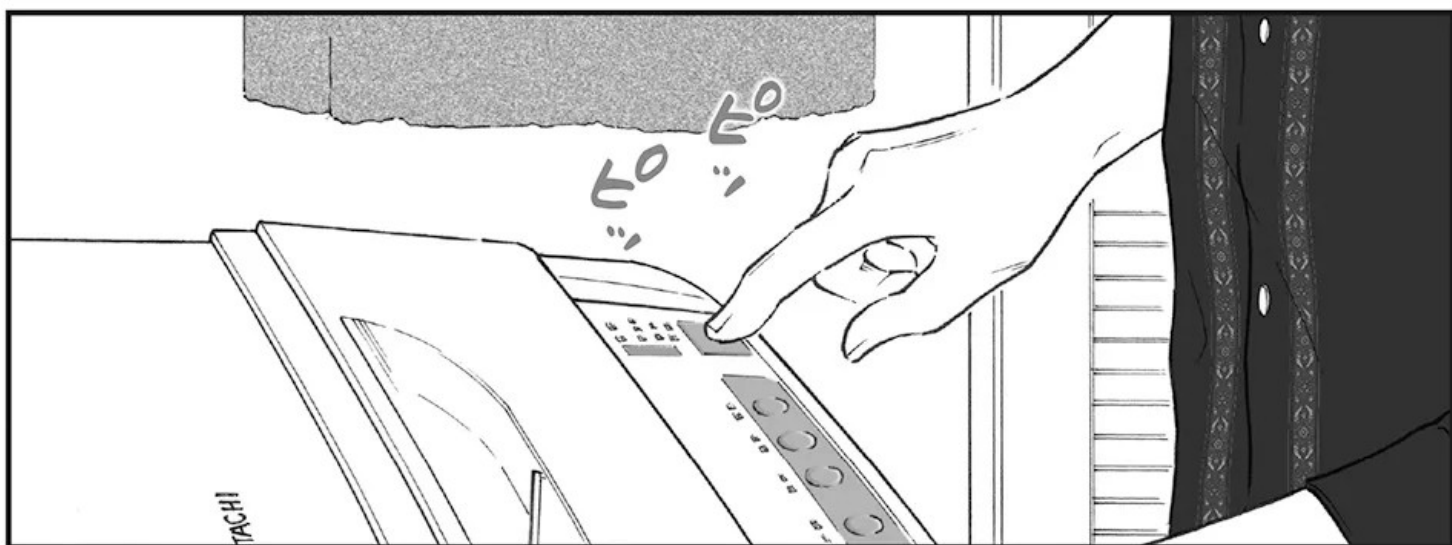
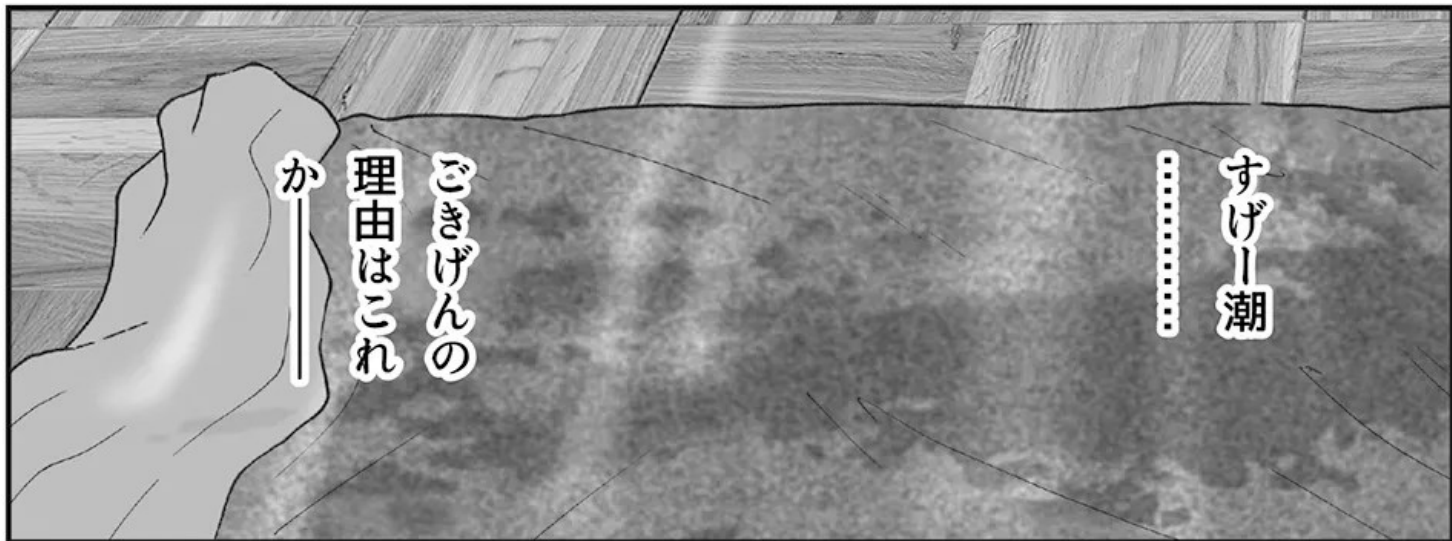
ある日突然一平のもとに転がり込んできた謎の女。その美貌と天真爛漫な性格と性的魅力からユキと関係を持った男は彼女を手元に置こうとするがある理由から長続きしない。身寄りも無く男から男へと果て無く渡り歩いている。

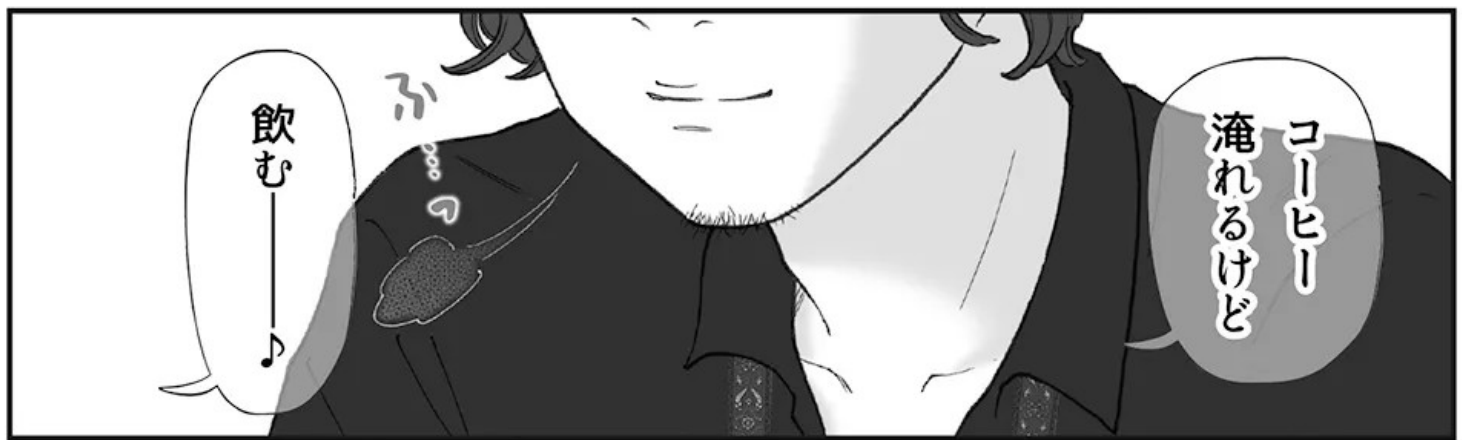


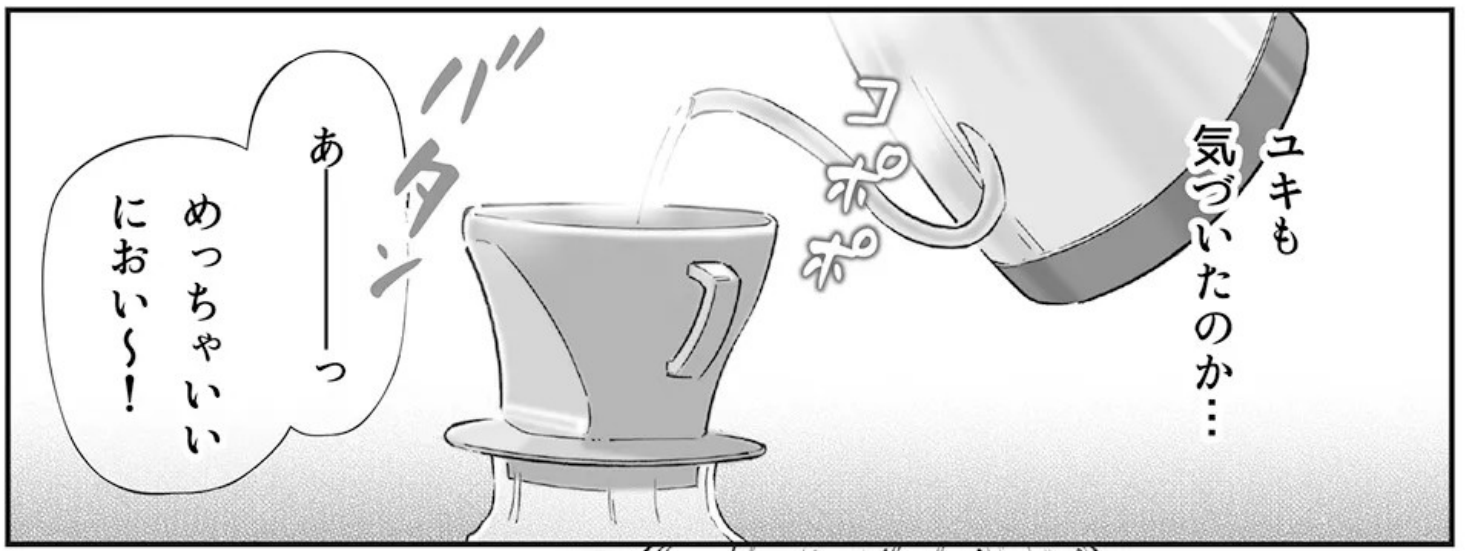














いち
に

2か所?

さっきのヤツ
キスマーク魔
じゃ無い男か



ホントだ

キスマの
林さん最近
連絡ないなあ

一平は
どうだった?

脱毛

あと2回ぐらい
来いって言われた



はい
女王様

カチ



みせて



今日で終わる
予定だったのに
早く終わりでえわ
恥ずすぎだぜ
まったく——



ちよっと
うぶ毛みたいなの
残ってるね

ふん
ホントだ



……したく
なっちゃやう?

703

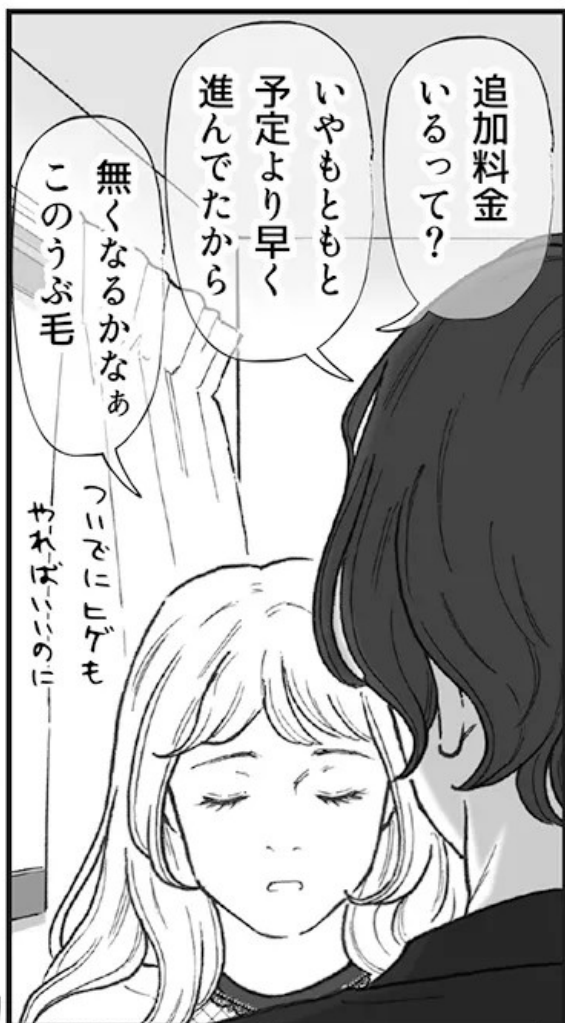


一週間後に
やって
それからまた
一週間後に
生えてこねえか
見るってよ

ヒゲは絶対
あがる

はあ

てかちんぽ
いじんなって



追加料金
いるって?

いやもともと
予定より早く
進んでたから

無くなるかなあ
このうぶ毛

ついでにヒゲも
ササゲインジンの

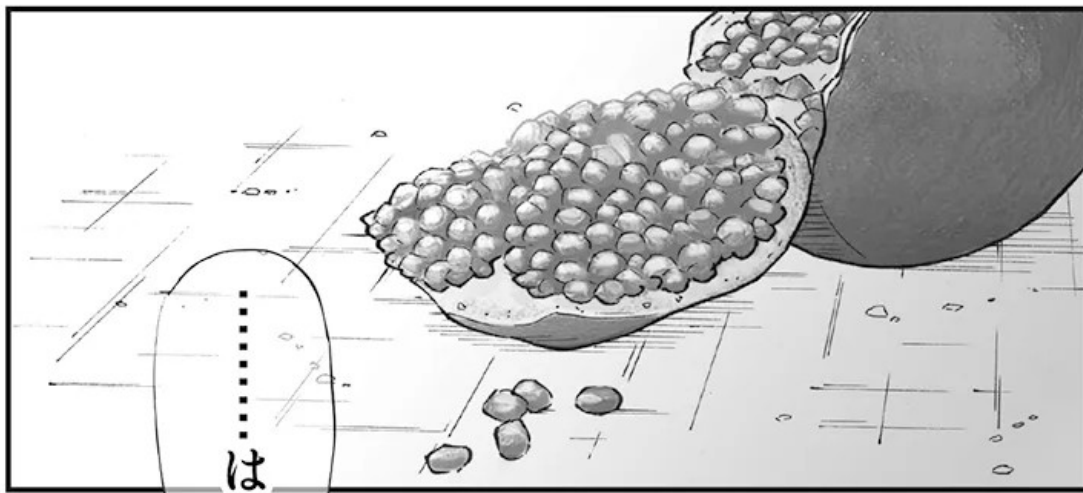
バカ
やめろって

なんで?
しようよ

——てお前
5回も出され
てたじゃん

うんだから

消毒してよ



……は？



この木の実が
食えるかって？

食えるワケ
ねーだろ そんな気持ち
ワルいもん



一平で

あたしを



えー

そうなのかな

おばあちゃん家に
植わってた木の
実によく似てる
んだけど……

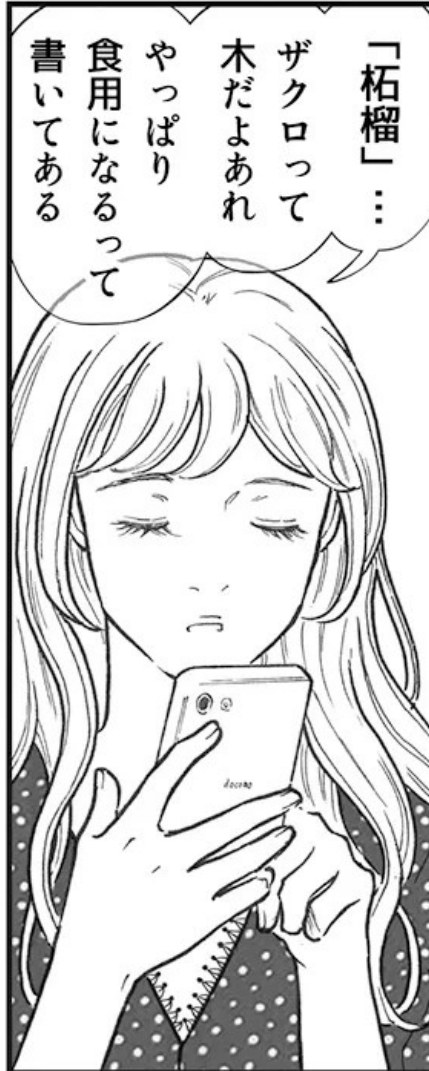
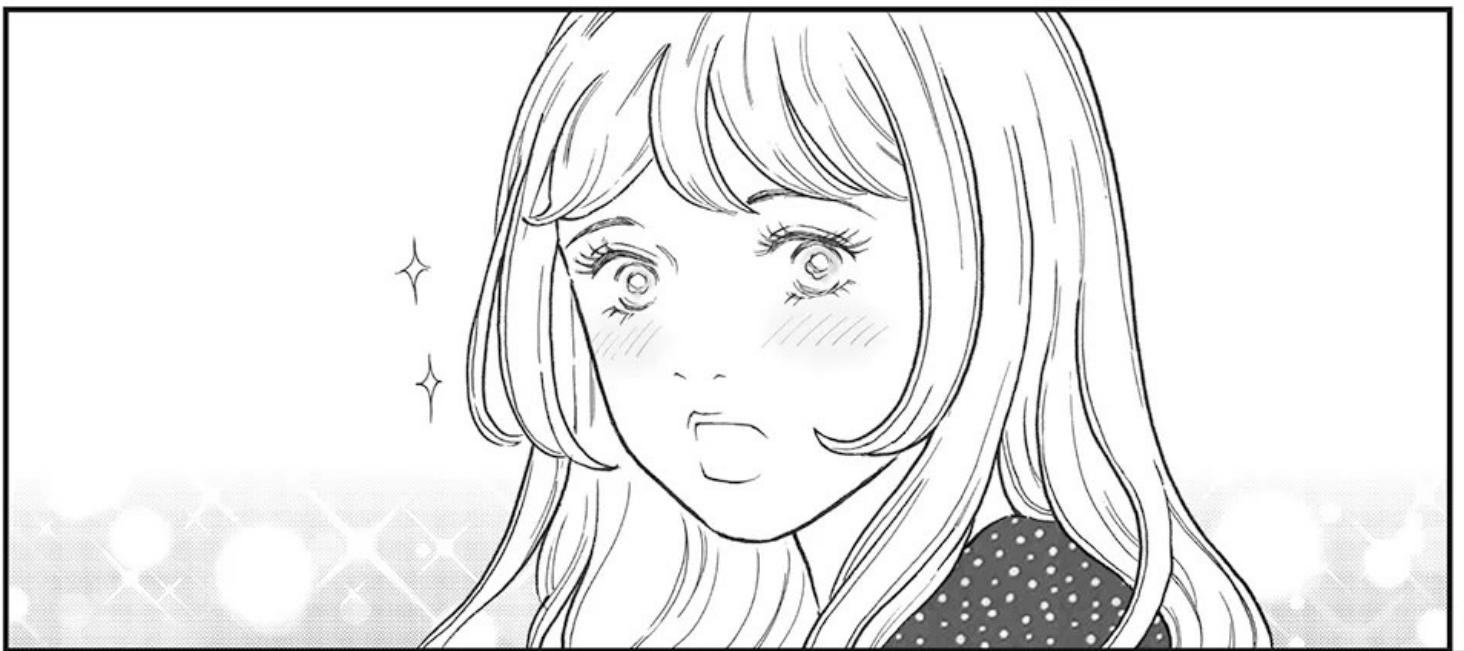


……なんだ
この女——？

見た目は
モデルばりの
顔とスタイル
してるけど

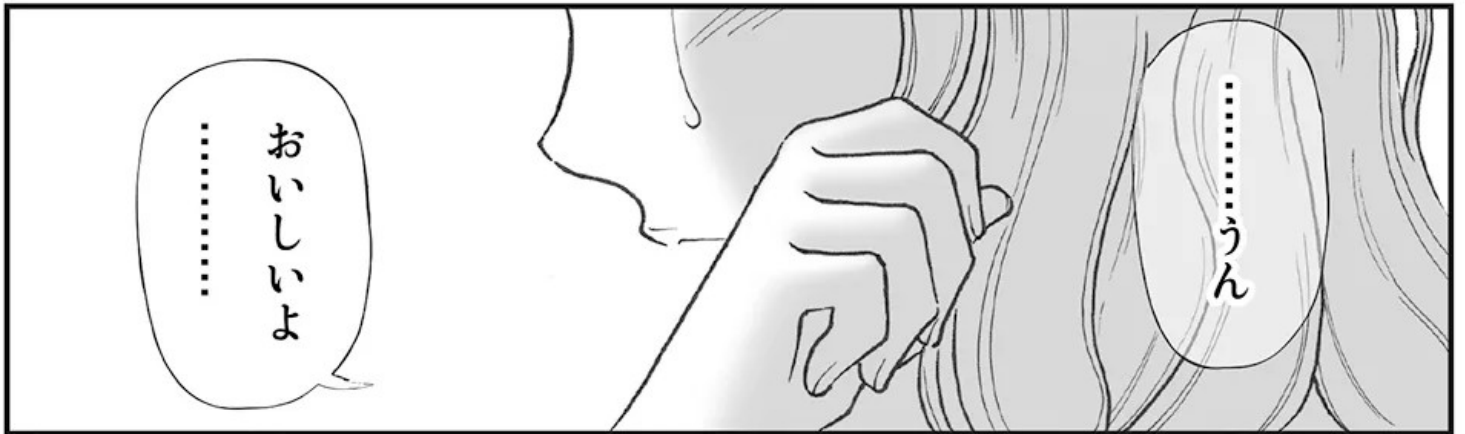
いきなり
そこら辺に
生えてる木に
なってる実が
食えるかなんて
フツーじゃねえ
よな……

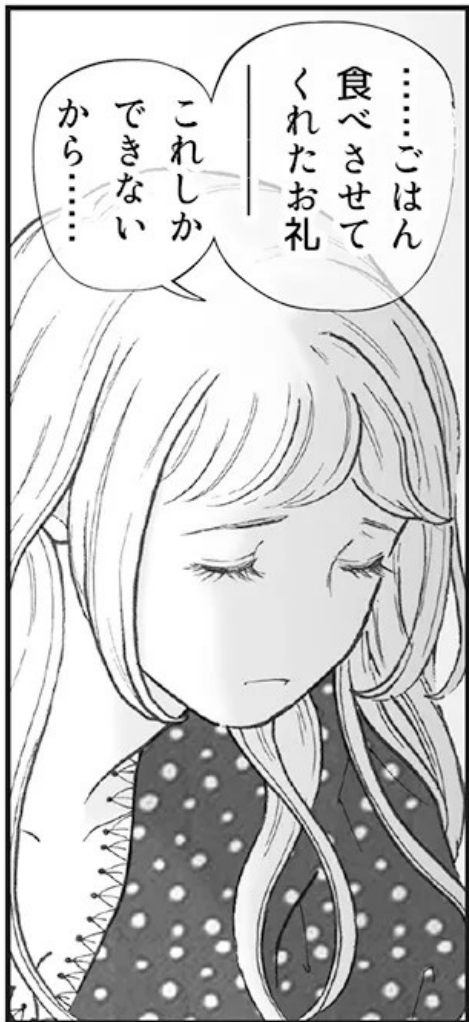
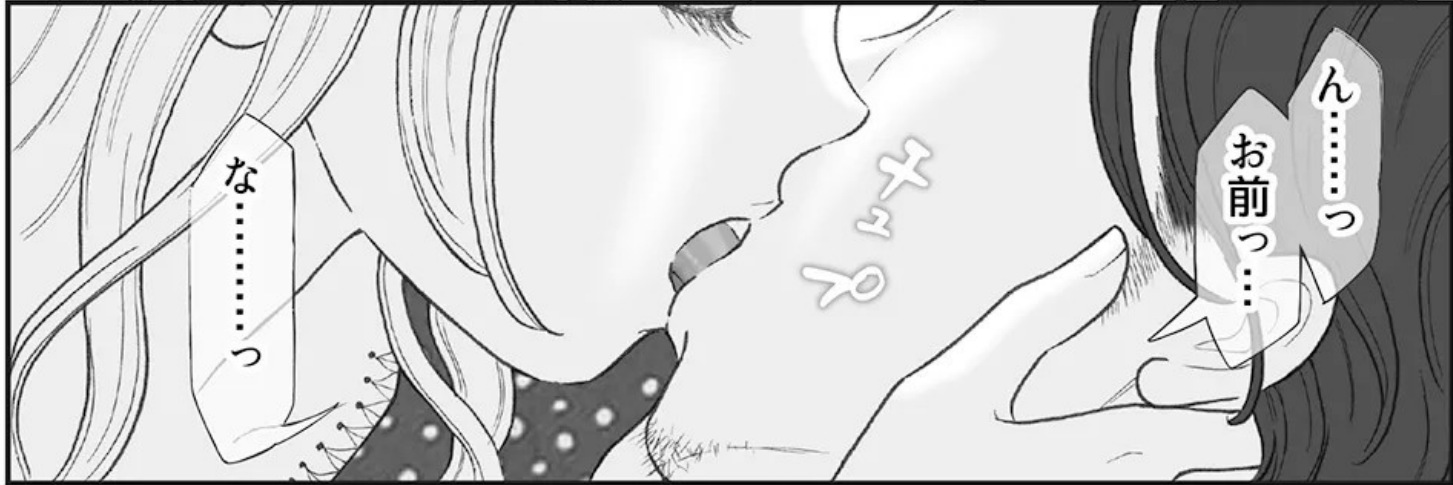


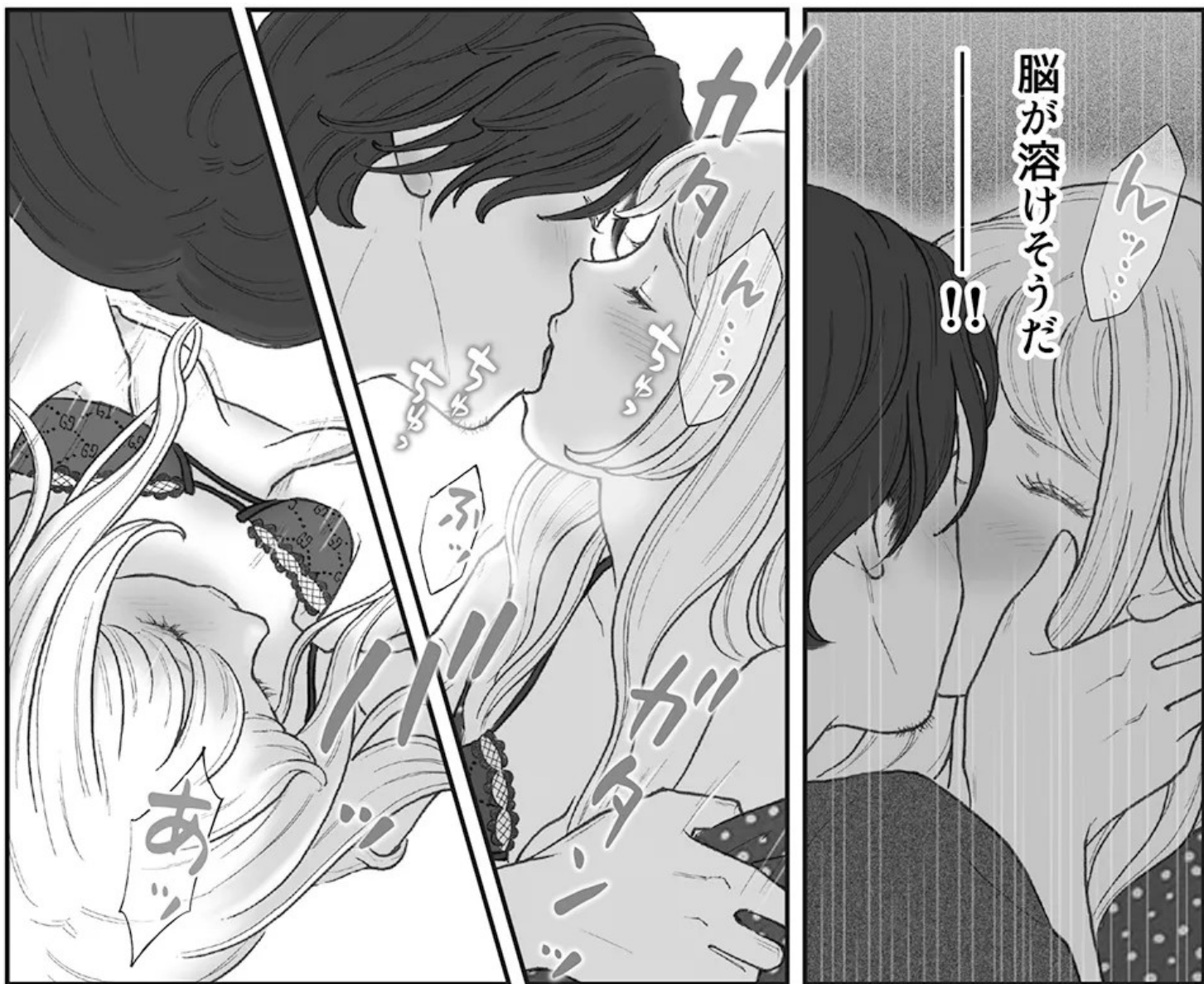


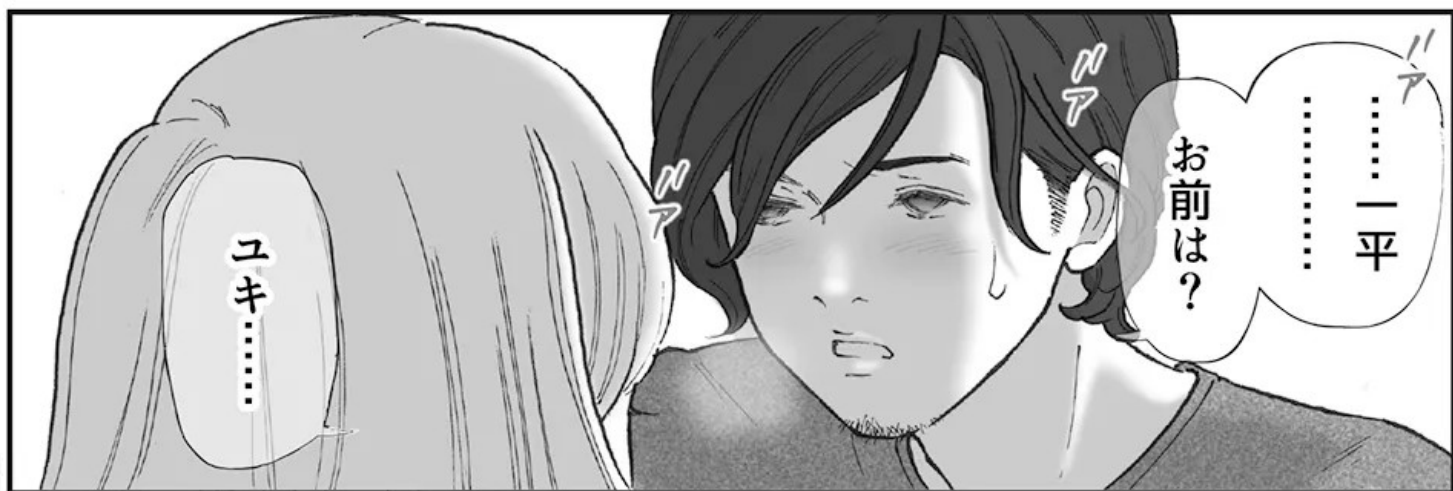
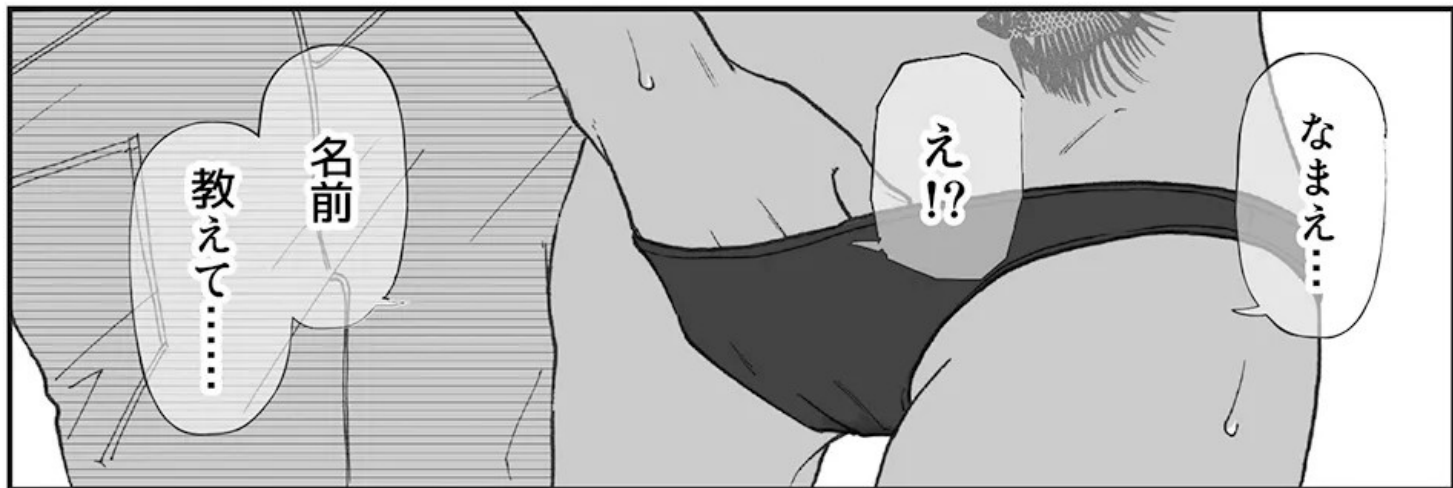
こいつ……
どう見ても
スッピンだよ
な……

……ヤバイ
ぐらい綺麗
なんじゃ
……?











ダメだ

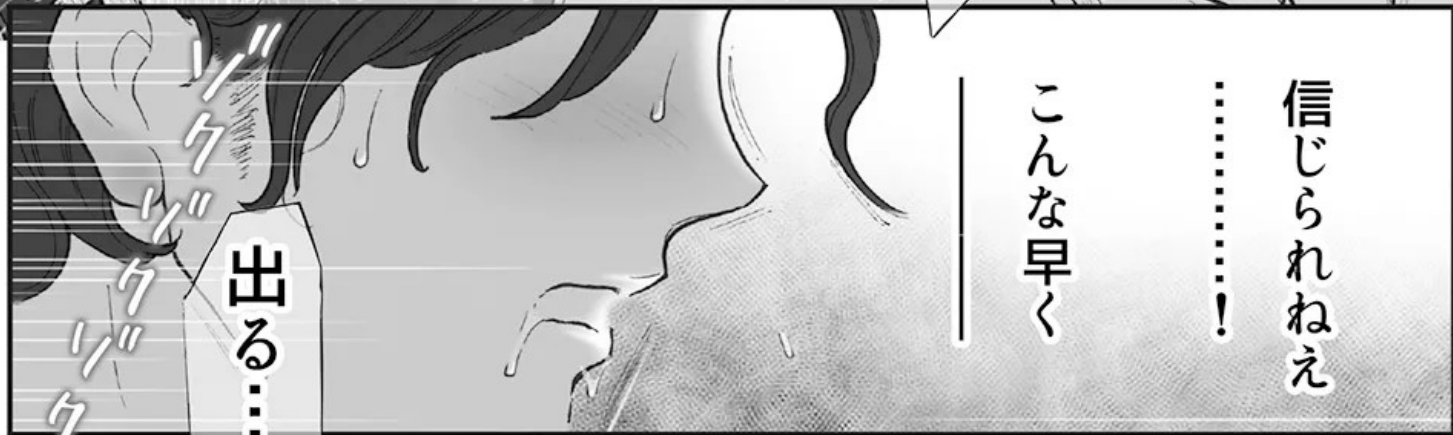
あま

あま

生でしちまって

るのに

あ



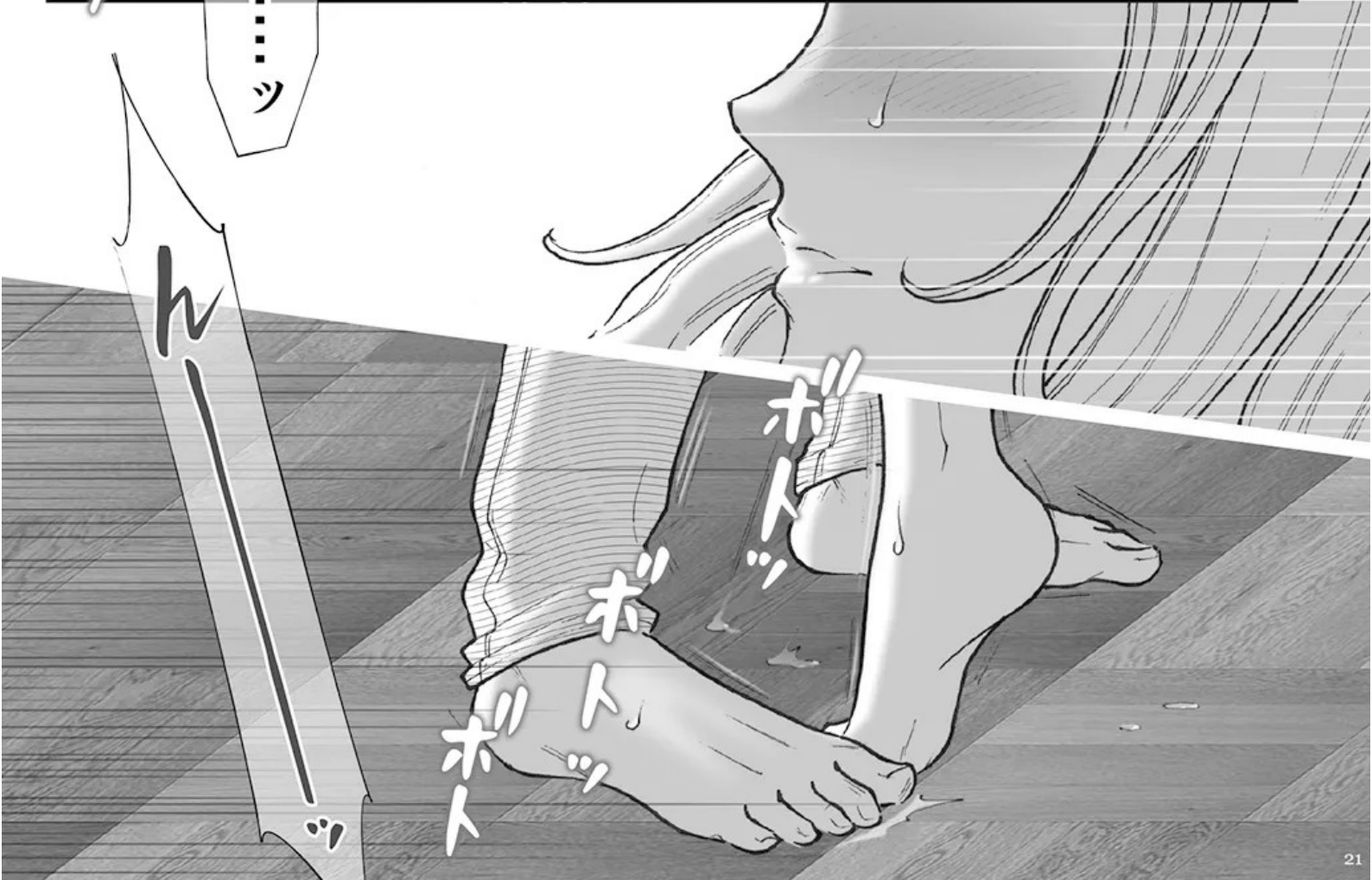
信じられねえ

.....!

こんな早く

出る.....ッ

リク
リク
リク
リク



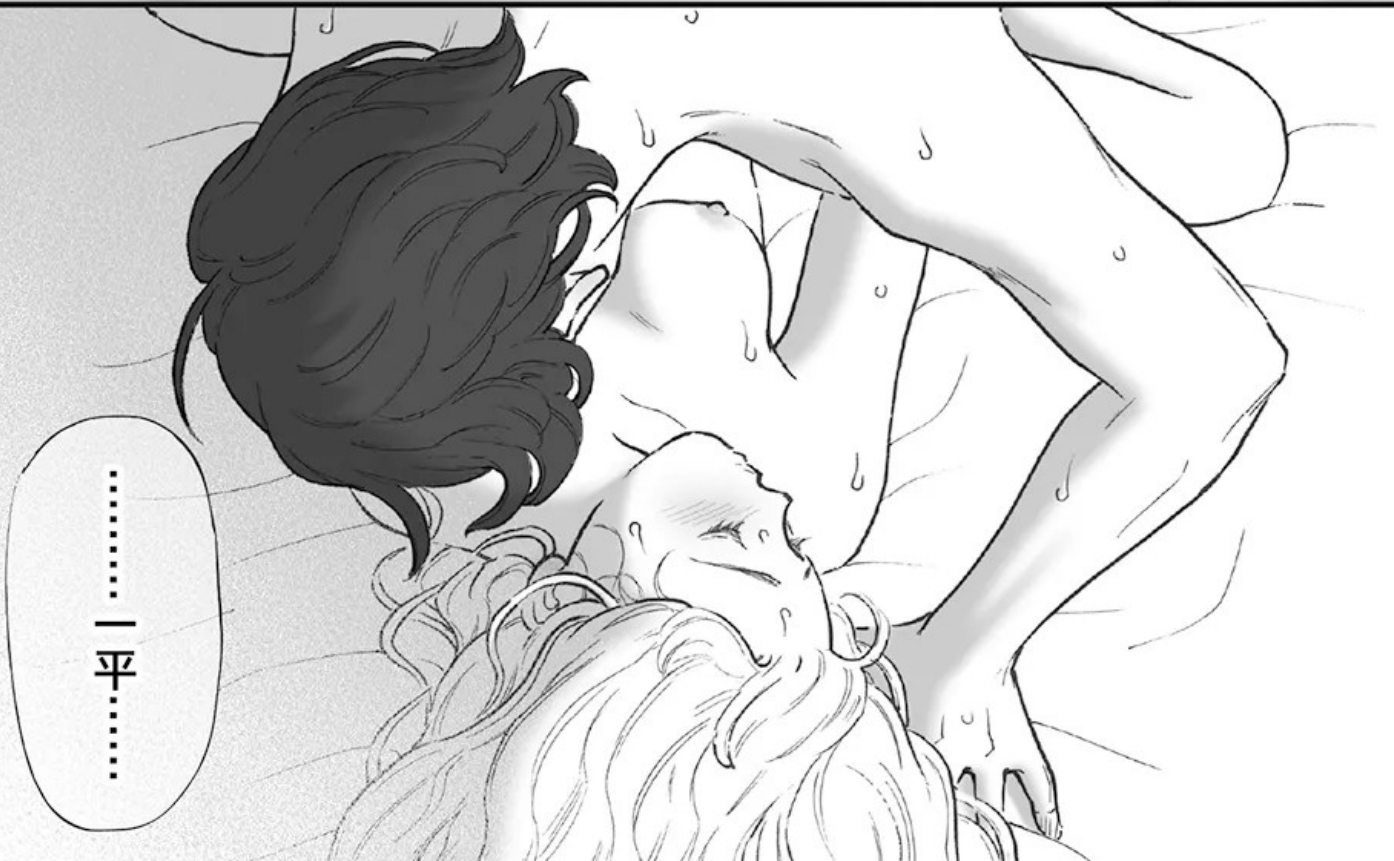
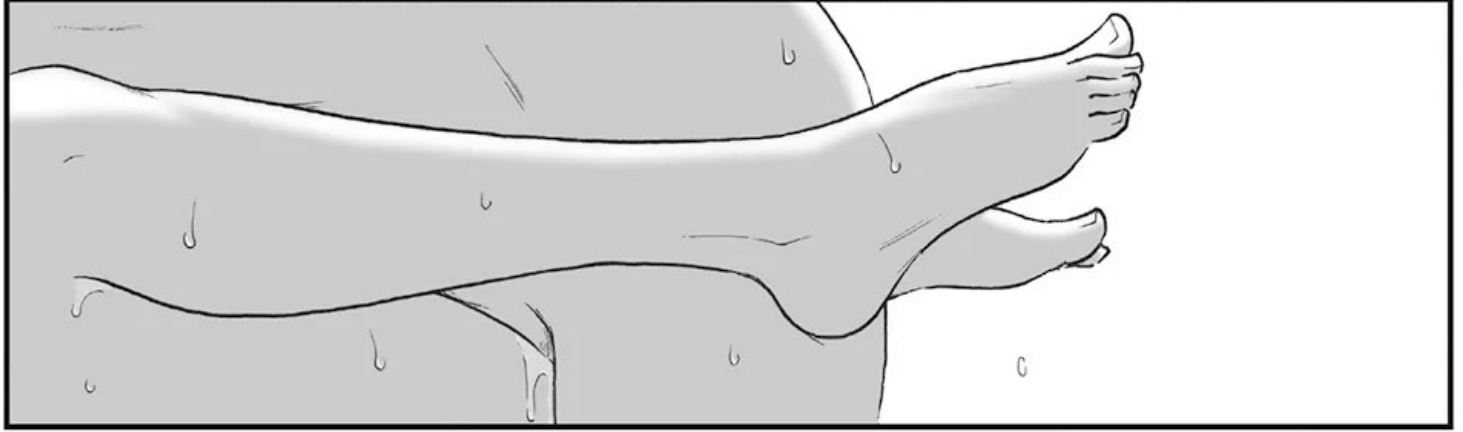
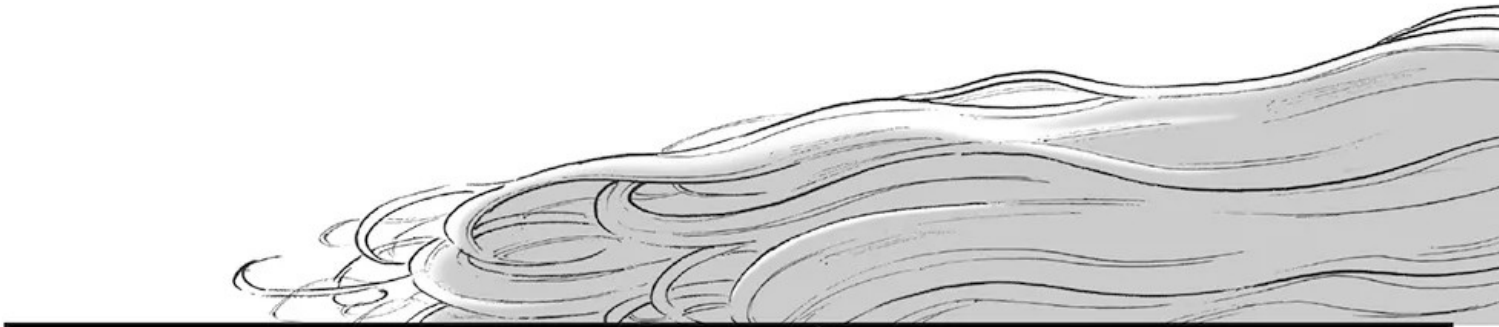
ポト

ポト

ポト

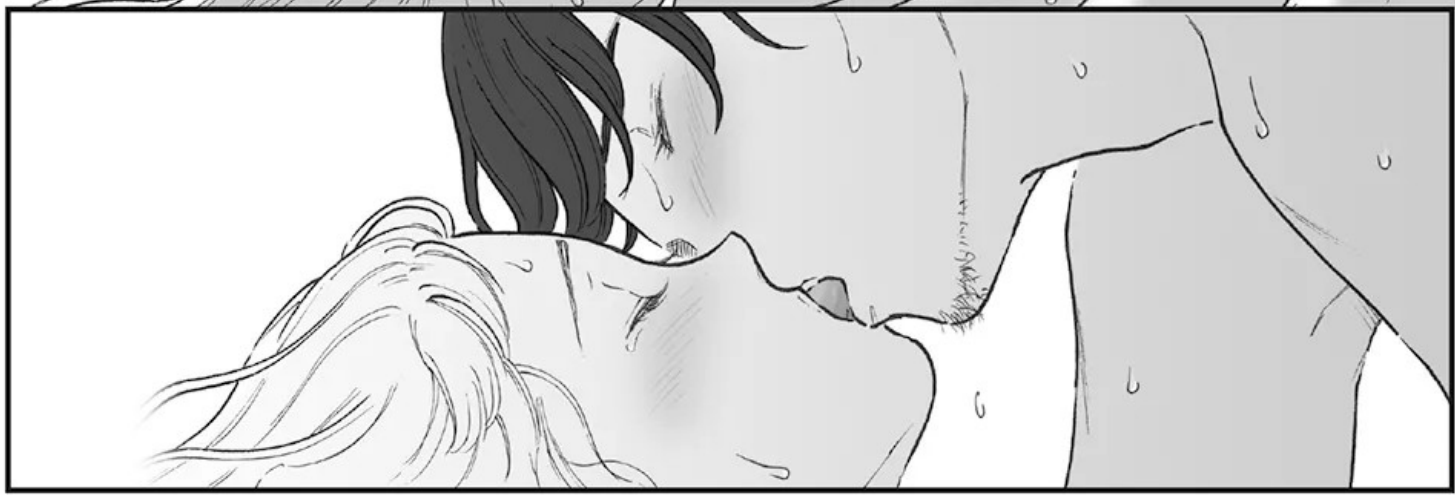
ん

ッ

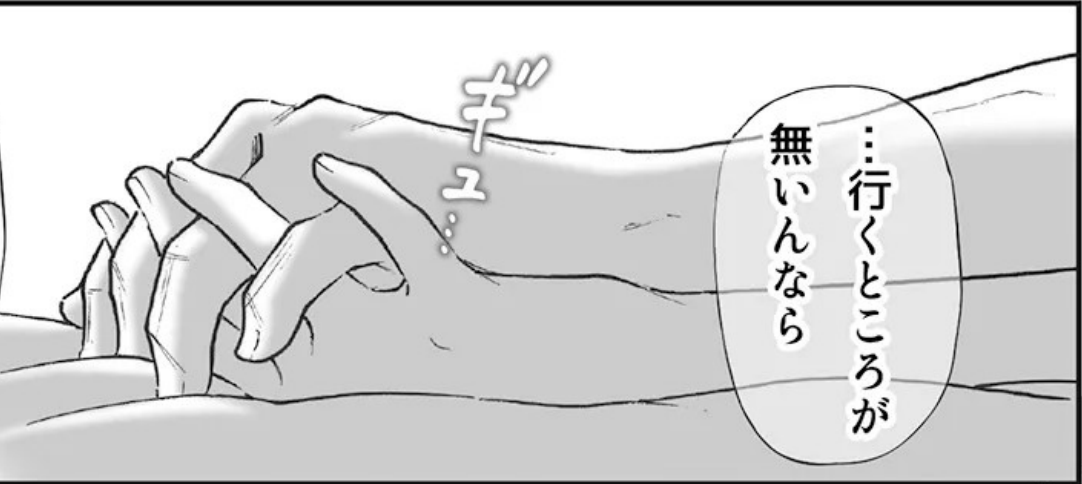


.....
一平.....

ユキ……



ここで俺と暮らそう



…行くところが無いんなら

俺の生活に無かったなんの色彩も

いいよ…

うん… あたしも働く

一緒に 足りない物はそろえよう

俺の稼ぎじゃさ 贅沢はできないけど

うん… 一平 うれしい…



この日突然
大輪の花が
咲いた



なんだ
コレ〜???



あたし
この部屋を
一平とあたしの
お城にするって
決めたんだから



いるかあ?
こんな
第一部屋に
合わねえだろ

この世に
こんな

いーの!



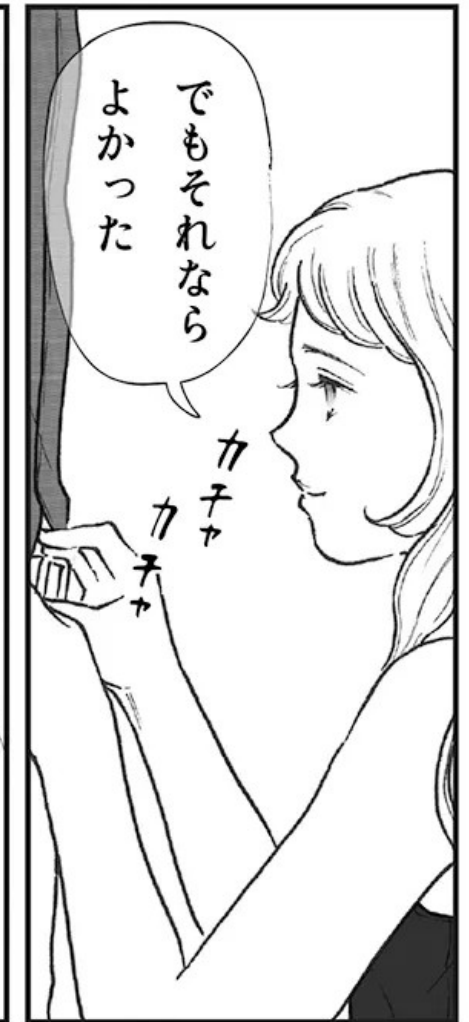
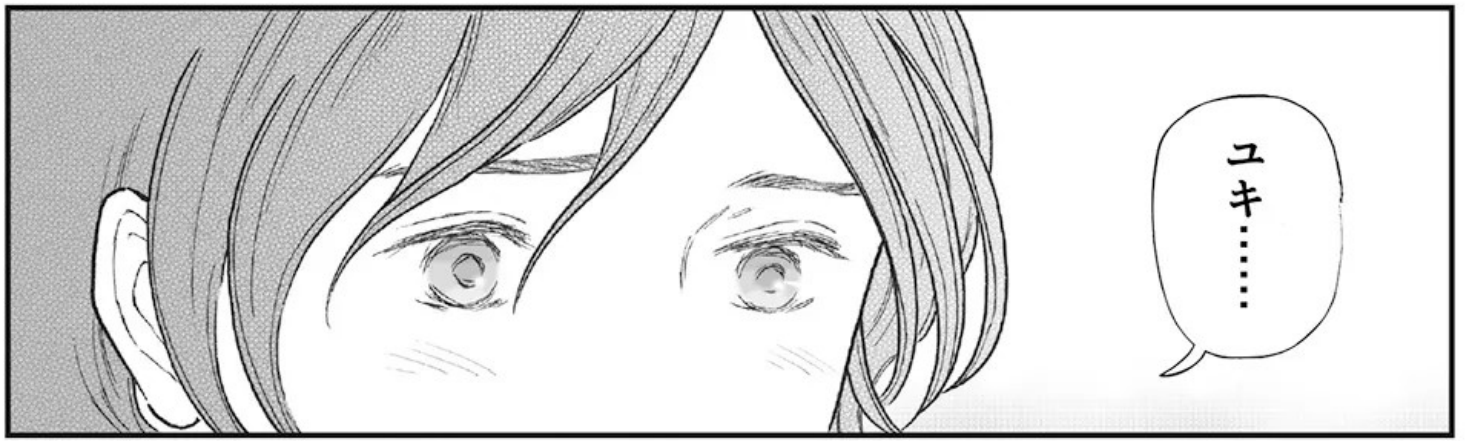
「なんだ」って
知らないの? 二平

天蓋だよ
て・ん・が・い!

あかざり♡

イヤ知っては
いるけど……

ただいま……





一平
大好き

お仕事
お疲れさま

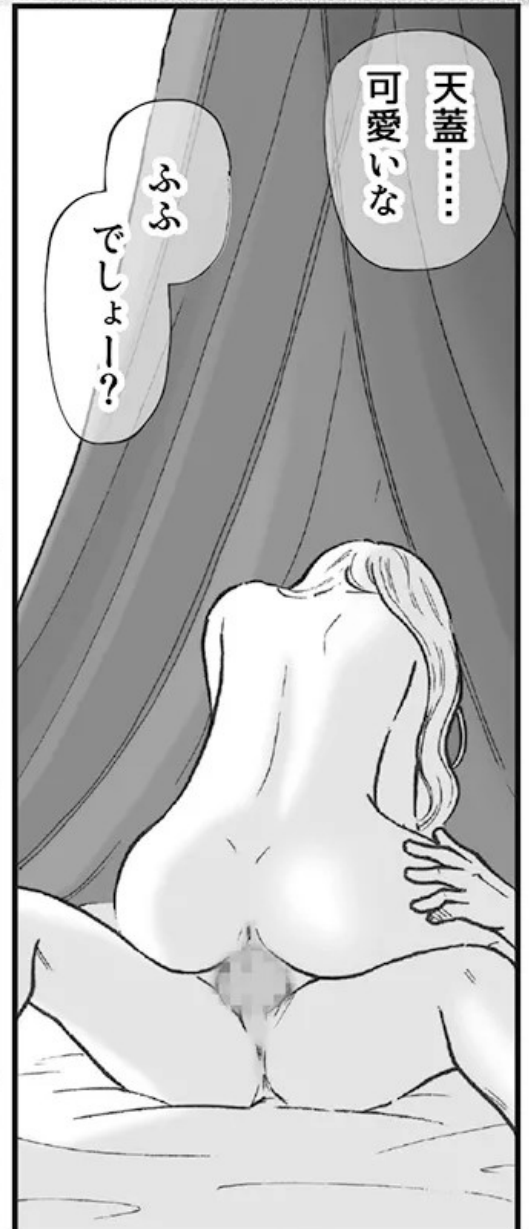


ユキ……



一平なら気に入って
くれると思った♡

はは



天蓋……
可愛いな

ふふ

でしょー？



……こんなもの
いくらぐらい
するんだらう



最低限の食費しか
渡して(渡せて)
ないのに——



一平の髪
やわらかくて
いいな〜!

そうか?

うん!

あたし結構
かたいから
うらやましい

ハゲそうで
心配だよ

え〜W



おいしー!

一平天才

料理は昔から
好きなんだよ

ここから

すぐのところに

旨い定食屋が

あって

そのマスターに

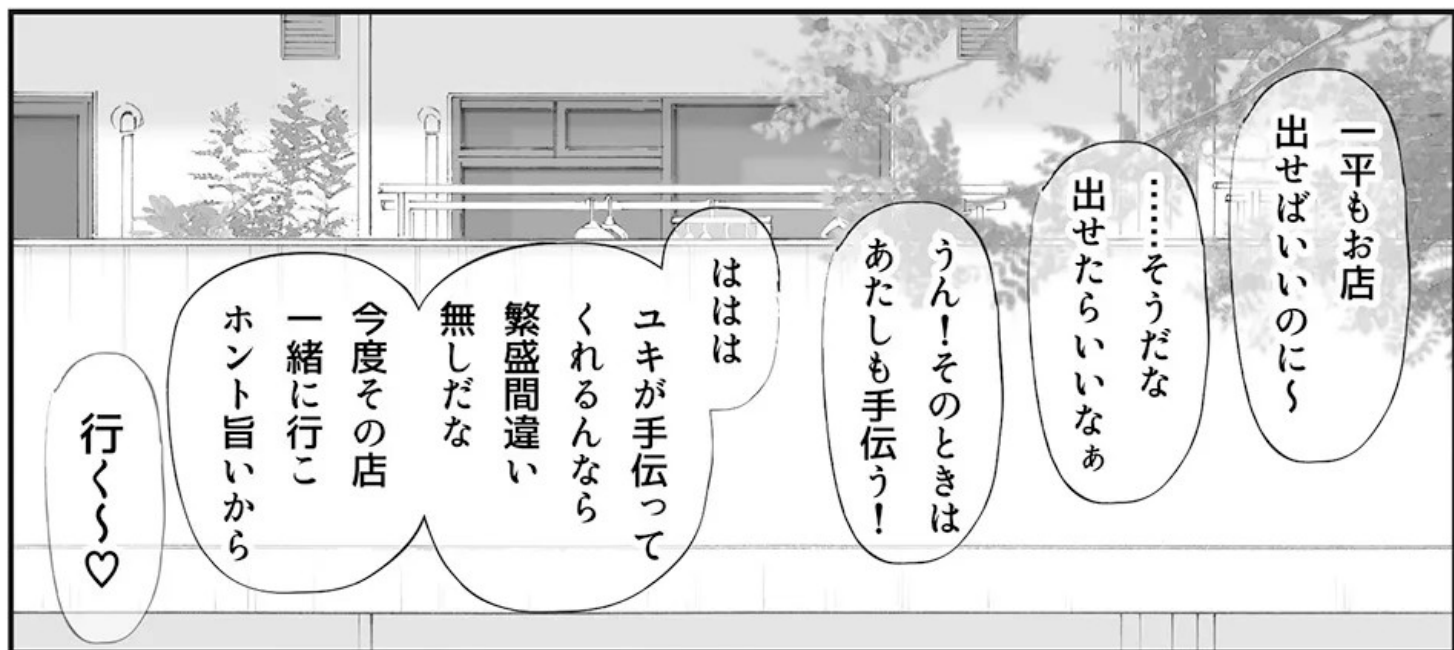
レシピ聞いて

作ったりしてさ



さすがに
ふたりだと
せまいなあ

あはは
でも楽しい



一平もお店
出せばいいのに〜

……そうだな
出せたらいいなあ

うん!そのときは
あたしも手伝う!

ははは

ユキが手伝って
くれるんなら
繁盛間違い
無しだな

今度その店
一緒に行こ
ホント旨いから

行く〜♡



えー!!
一平ちゃんの
彼女~~~~!!?

めちやくちや
美人じゃん
どうやって
口説いたのよ!

っんにちちち

ちよ
マスター
あっちの
お客さん
呼んでるから



あー
おいしかった
マスターも
いい人だね

旨いよなあ
毎日あそこで
食えたらいいのに

えー
だめだよ
一平のも
食べたいもん!

ハハハ



脚中なめ
まわしたい

やだー!

一平ってば

マジメな顔で

冗談言うんだから

マジメだもん

それからも



…買ったの?

うん

ちよっと出かける
ついでがあったから

どう?

……よく
似合ってるよ



今日ユキ
でかくね?

え?

あ

靴が違う
からかな



よお 間宮
たまには
一杯どうだ？

あー
今日はちょっと…

なんだよ
最近つきあい
悪いなあ
女かく？

すみません！



せつかくの
給料日だ

ケーキでも
買って帰って
ユキと食べよう

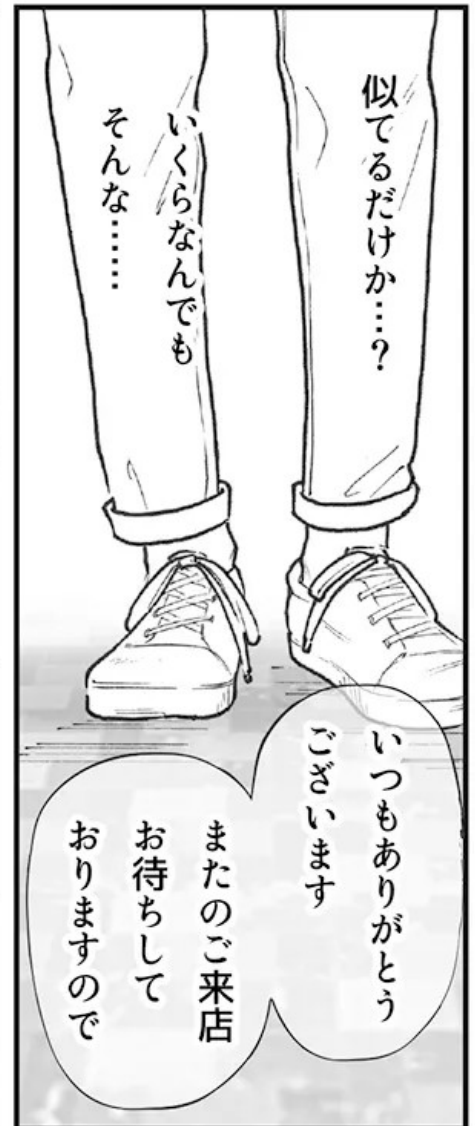


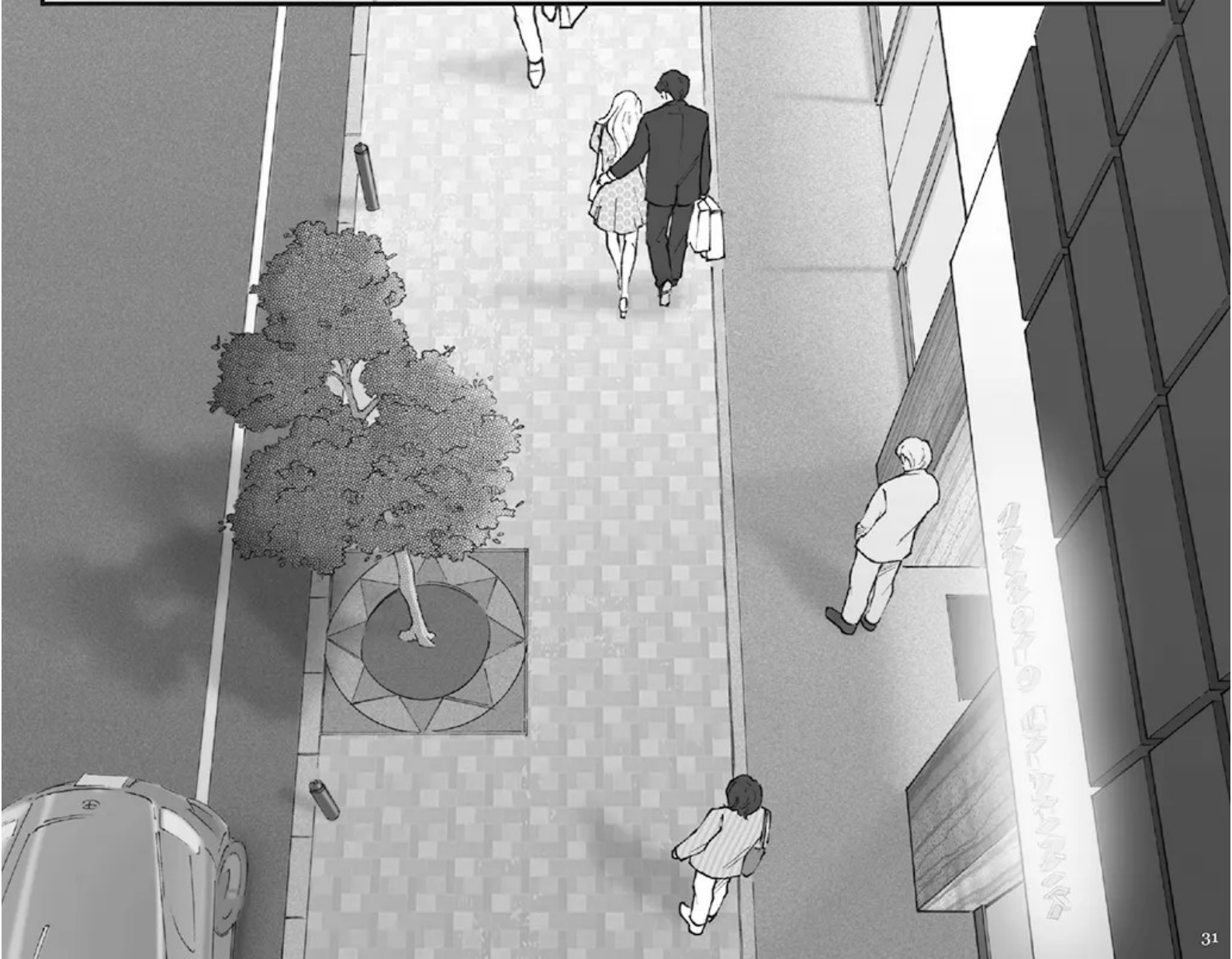
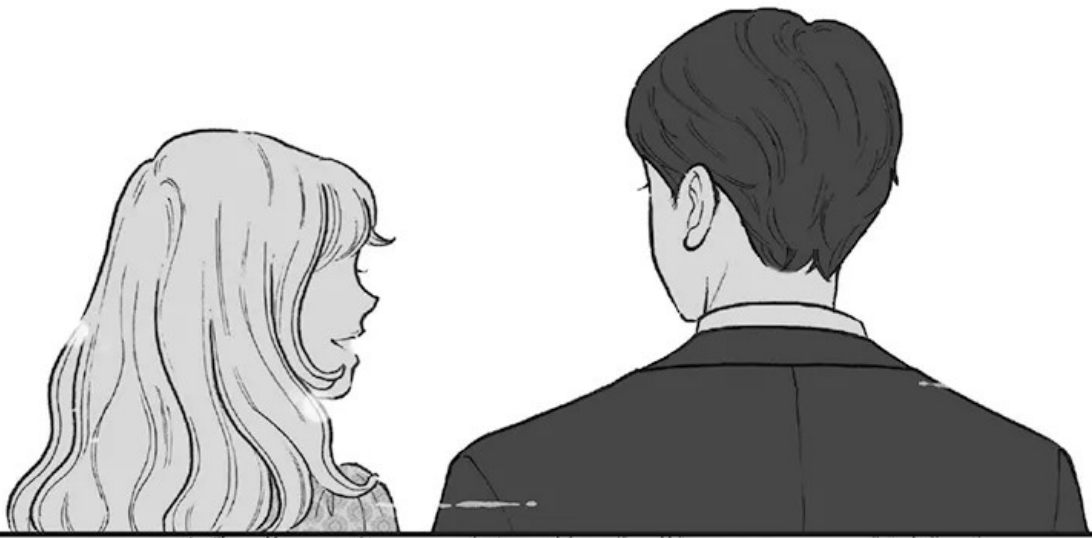
体ひとつで
転がり込んできた
はずのユキが

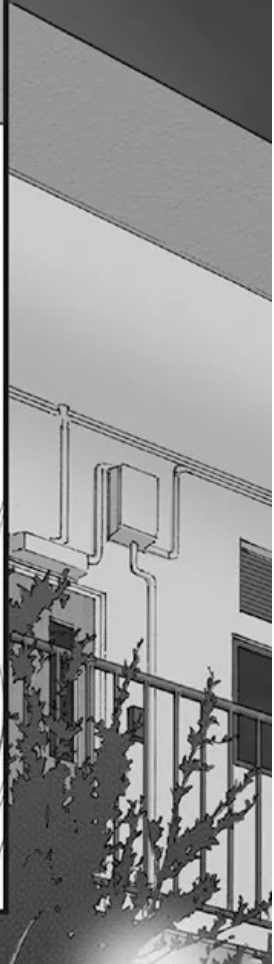
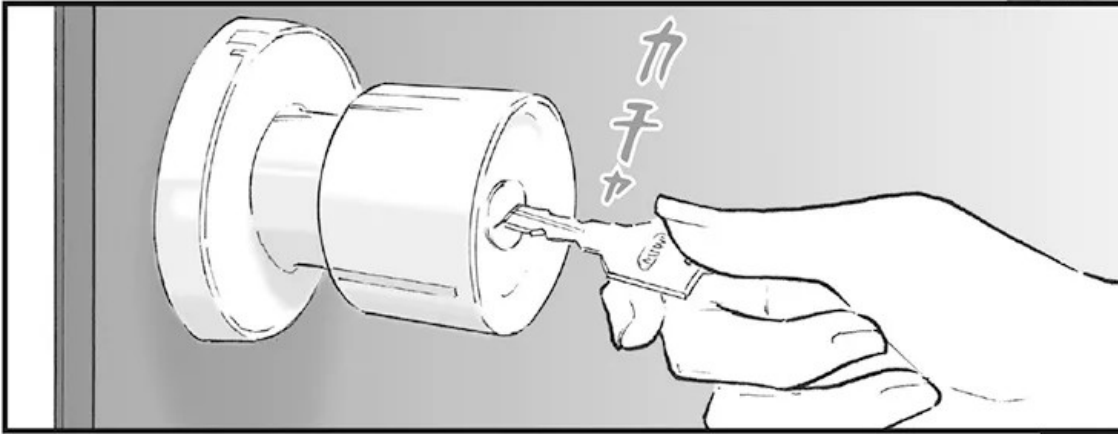
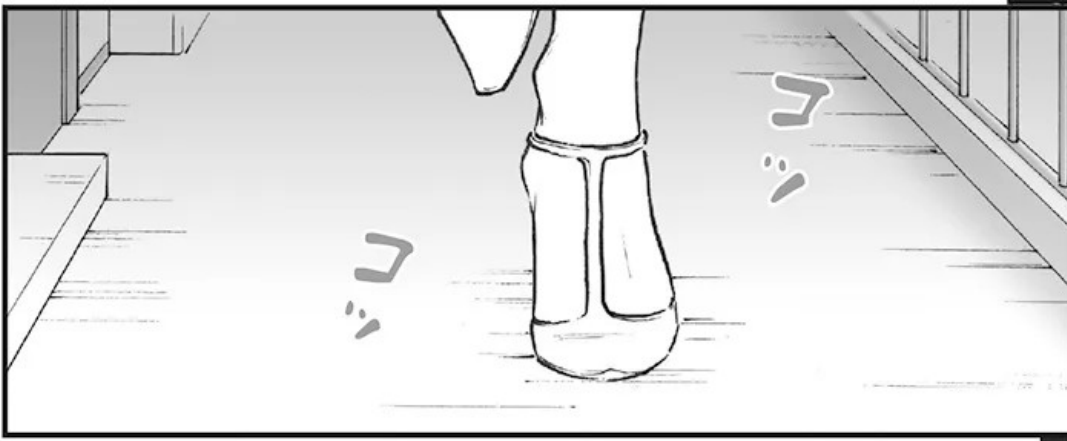
次々と新しい
服や靴で
着飾るのを
訝しみながらも
俺は何も言えずにいた

ほんの些細な
きっかけで
今の暮らしが
壊れて

永遠にユキを
失いそうな予感が
していたからだ







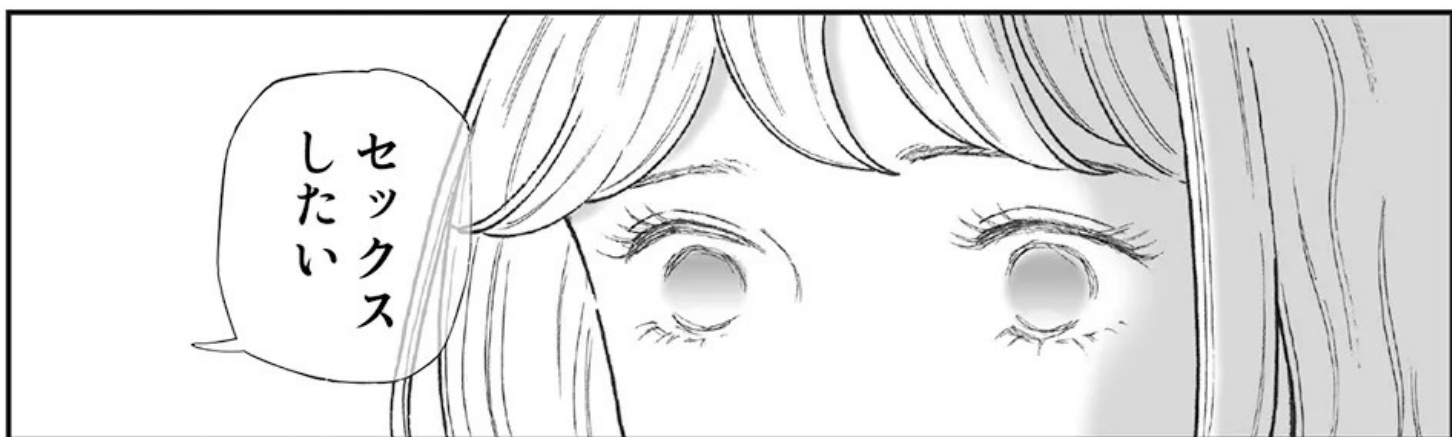


あー！

さては寝てた
んでしょ！

ごはんまだなら
なにか作ろっか？

……ユキ



セックス
したい



他の男と
したばかり
だからか



——二平……！

待って

どうして



し……してる
じゃない

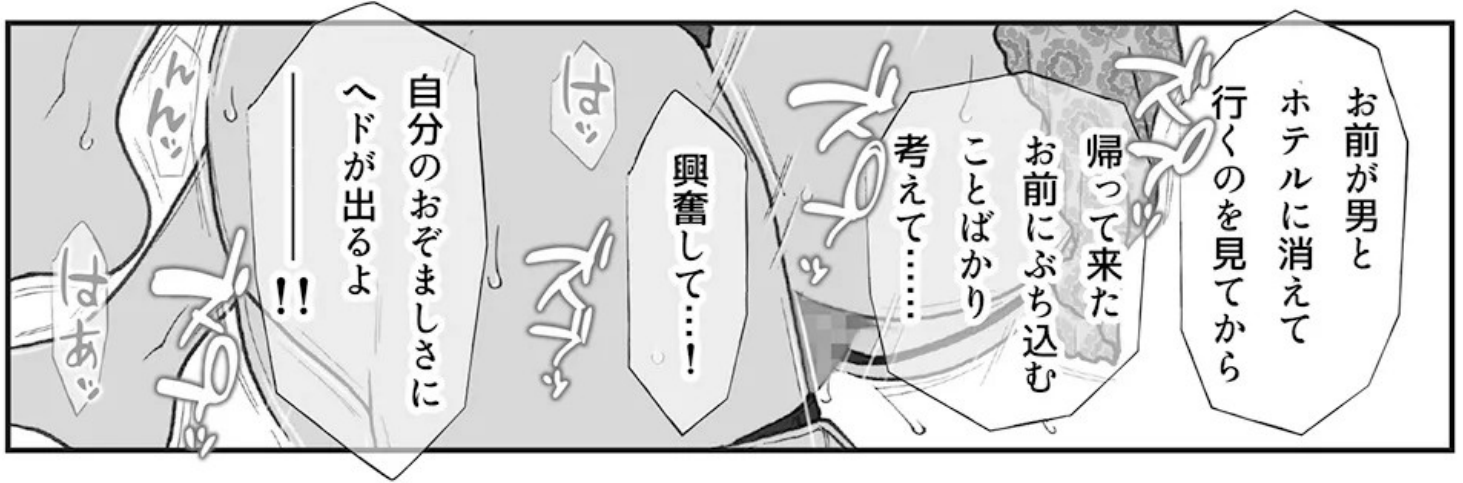
毎日……
いっぱい

今朝だって二平
遅刻しそうに

今

今すぐしたい





お前が男と
ホテルに消えて
行くのを見てから

帰って来た

お前にぶち込む

ことばかり

考えて……

興奮して……!

自分のおぞましさに
へドが出るよ

!!



……一平……

ハア

ハアッ

すき……

ハア



だって……
神様がくれた
ものを利用して
何が悪いの?

15のとき初めて
買ってくれた人は
名器だって言って
30万もくれたわ



キラキラしてる
綺麗なものを
買うのは
やめられない

高価なものを
手に入れるために
いちばんいい
方法なの……

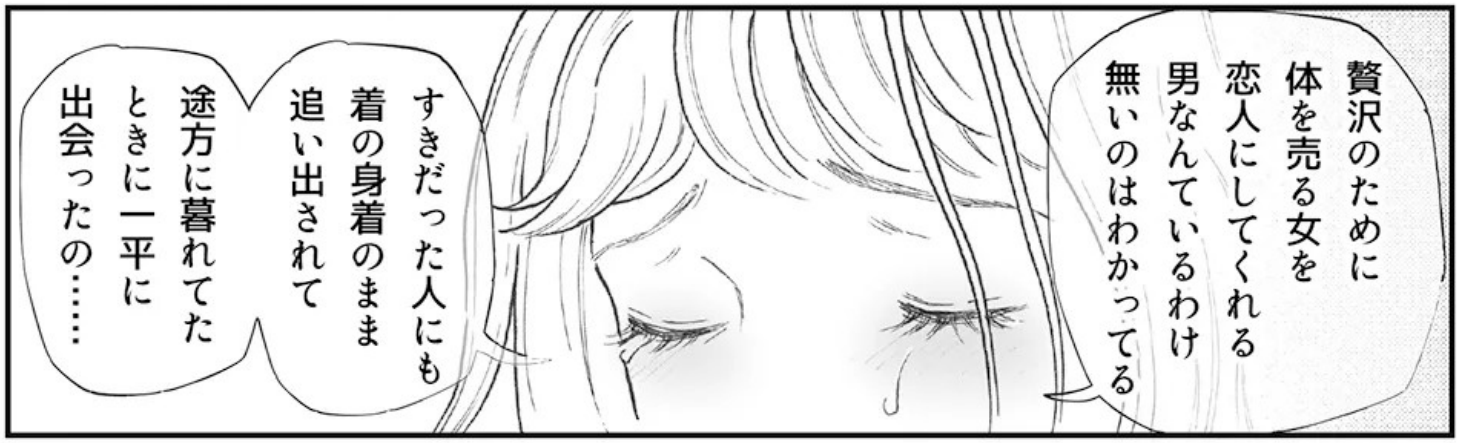


あ!?

……信じて
くれない
だろうけど

あたしが
いちばん大切に
思ってるのは
一平だよ……

……でも



贅沢のために
体を売る女を
恋人にしてくれる
男なんているわけ
無いのはわかってる

すきだった人にも
着の身着のまま
追い出されて

途方に暮れてた
ときに一平に
出会ったの……

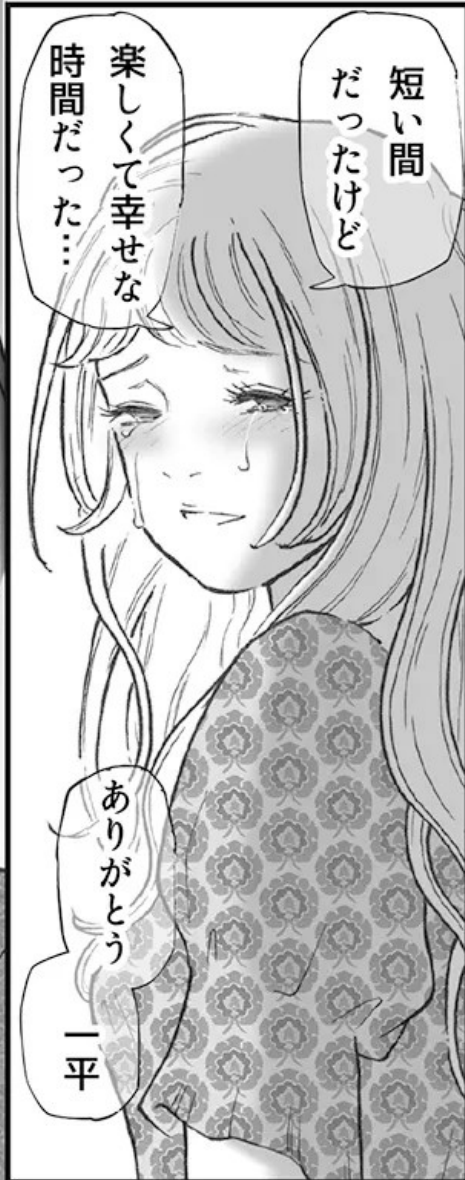


……あの日
一平が食べさせて
くれたトーストと
コーヒー……

涙が出るぐらい
おいしかった……

食べものを
あんなおいしく
感じたの

生まれて
初めてだったよ
……………

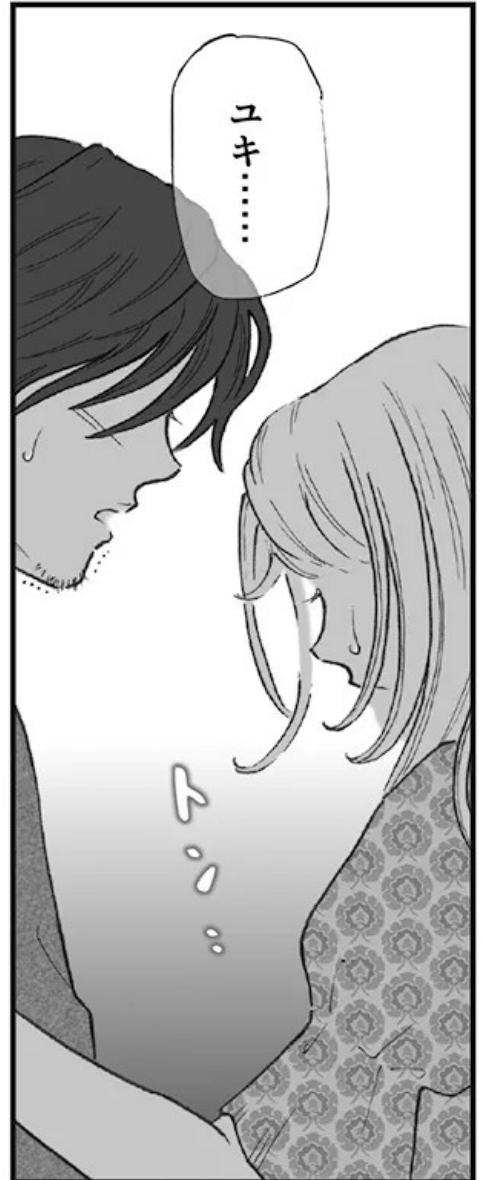


短い間
だったけど

楽しくて幸せな
時間だった……

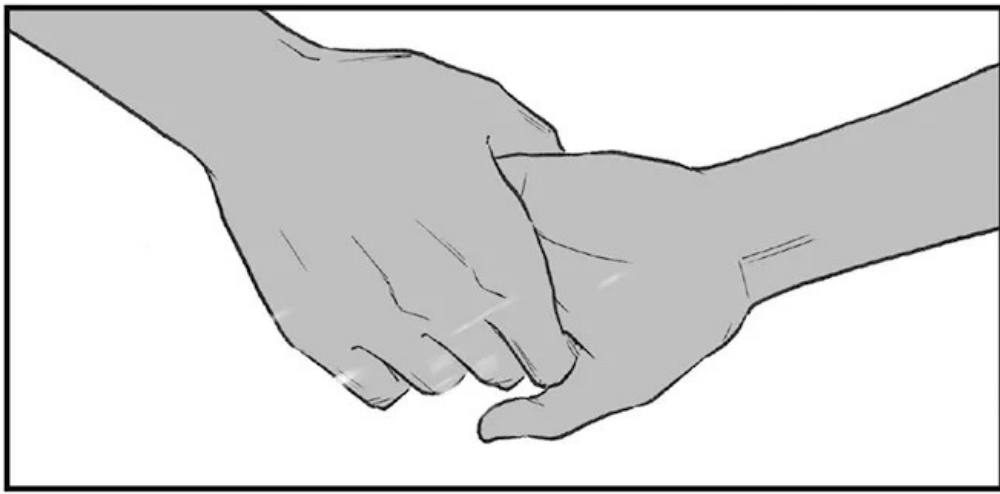
ありがとう

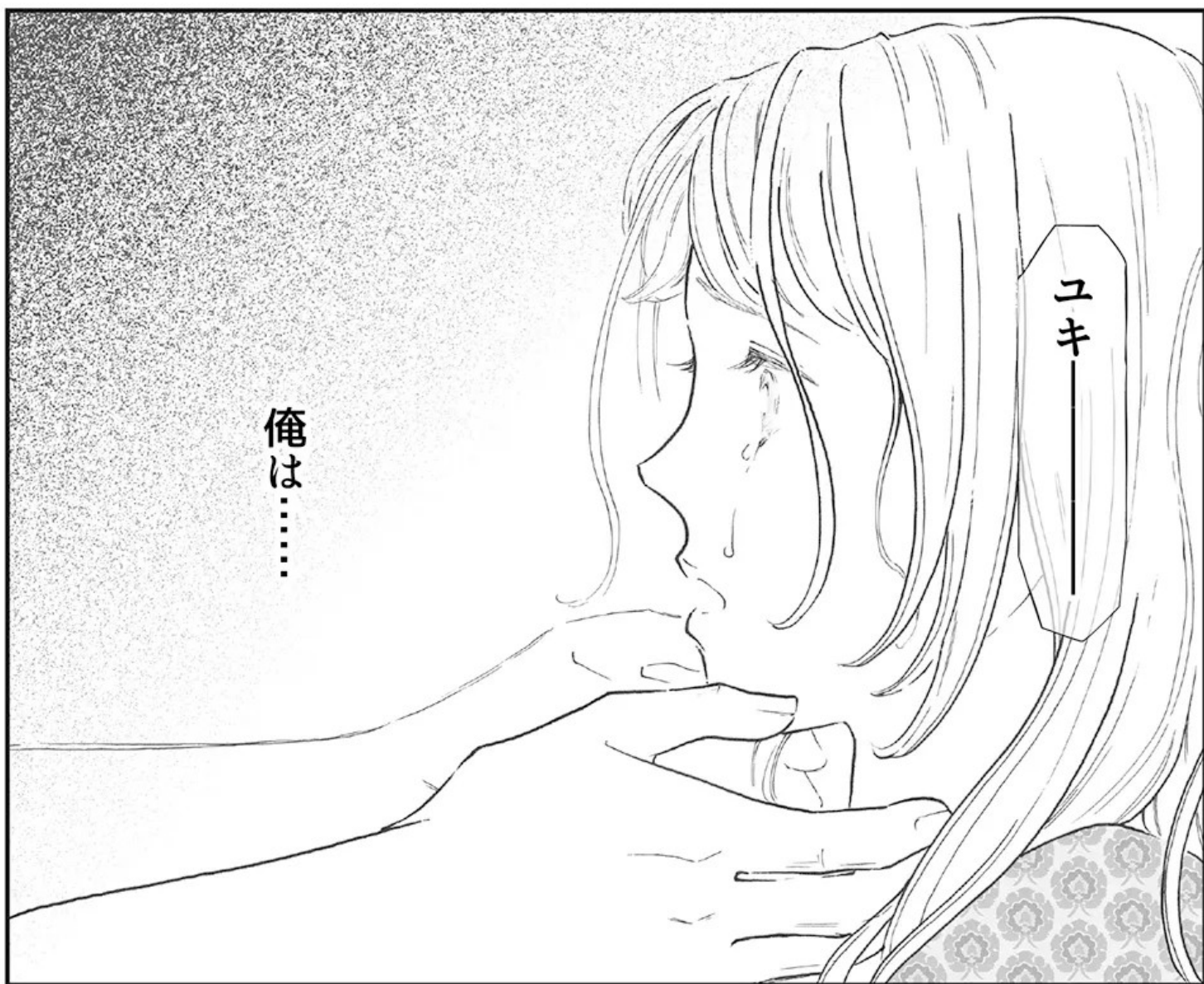
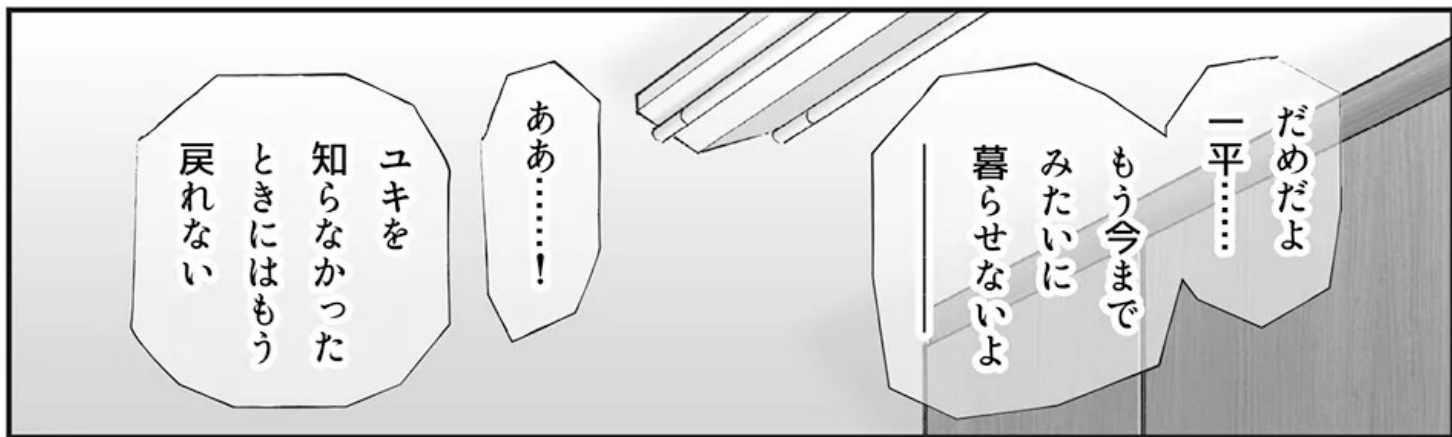
一平



ユキ……

トースト……

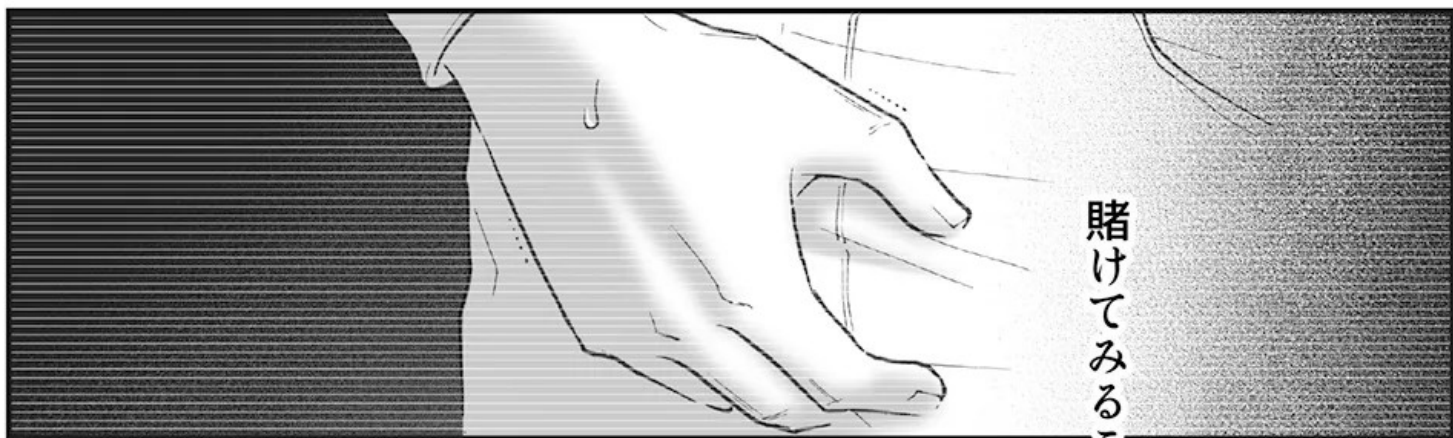




あのときの



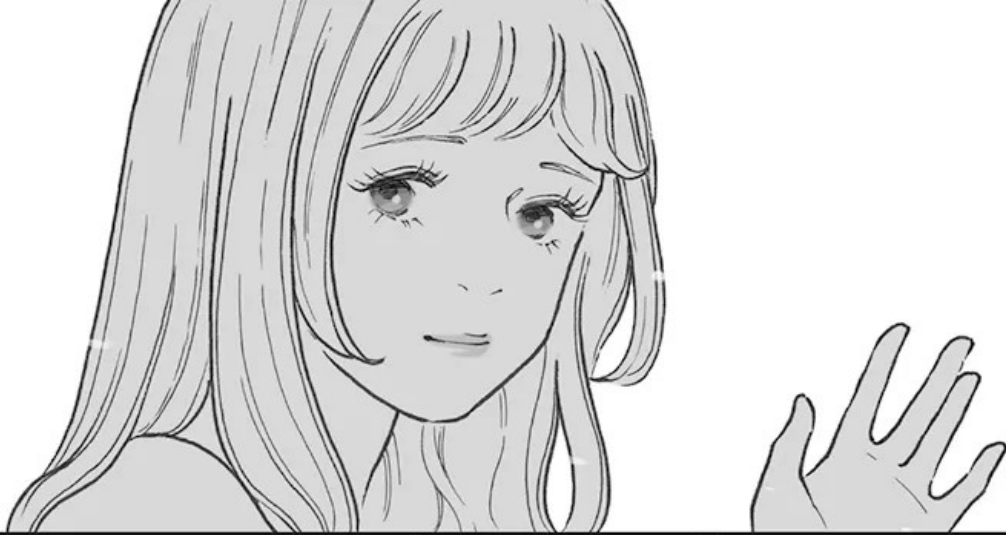
説明の
つかない
感情に



賭けてみることにした

試したいことがあるんだ……





ユキちゃん!

あっ



やっぱり
抵抗ある?



…あたしの
ウチなんだ

カ
ン
カ

え?

ユキちゃん家!?

ほんとに
ここが!?



迷っちゃった?

ごめんね

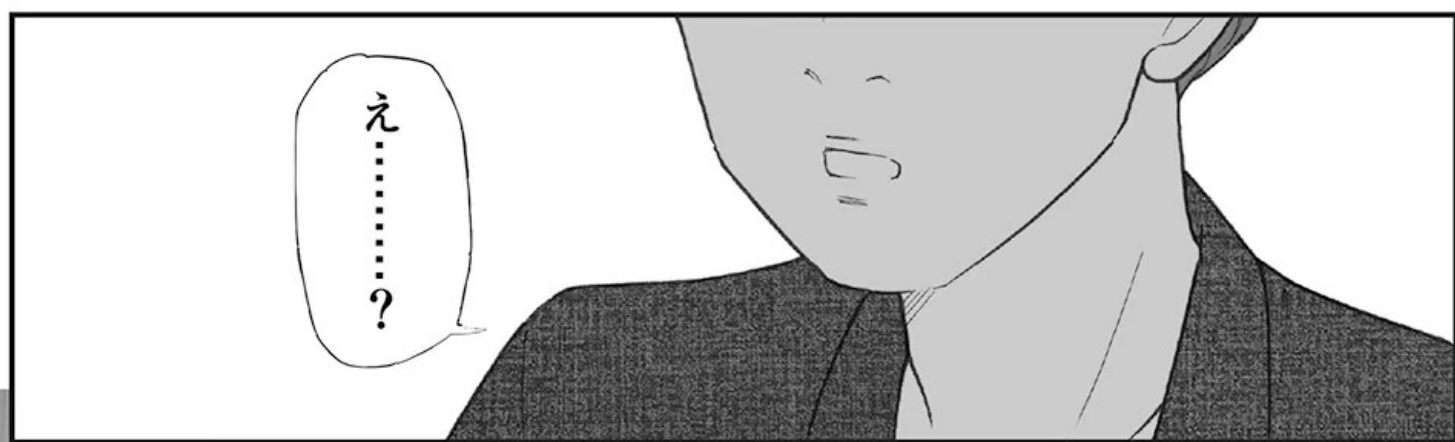
急に場所

変えてもらって

いや全然

だけど間違いかと
思ったよ

普通の住宅街
過ぎてさ





見たいんですよ

自分の女が

他の男と

やってるとこ

最近どうやら

ヘンな性癖に

目覚めちゃった

みたいで

もちろんあなたの

許可がいただければ

ですがね——

これは罰だ……

あなたが

いちばん大切だと

甘い言葉を

吐きながら

金のために

欲望のために

他の男の前でも

股をひらく

お前がやってることは

そういう汚いこと

なんだ——



全てを
受け止められる
のか試してみろ

そして俺も

あのときの興奮が
何だったのか自分に
聞いてみたい



全ての
目の当たりで

……はは

俺だって

こう見えて
ハプターの
経験ぐらい
あるんだぜ
………?



すつげえイイ声で
鳴くんだからさ

ハハハハ



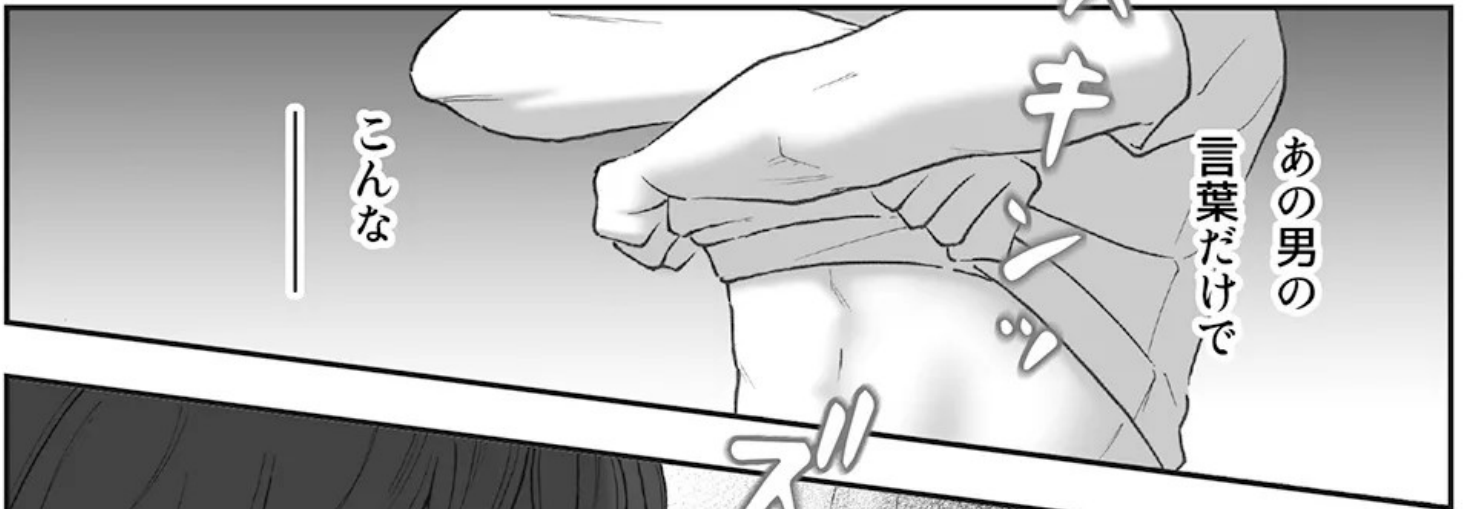
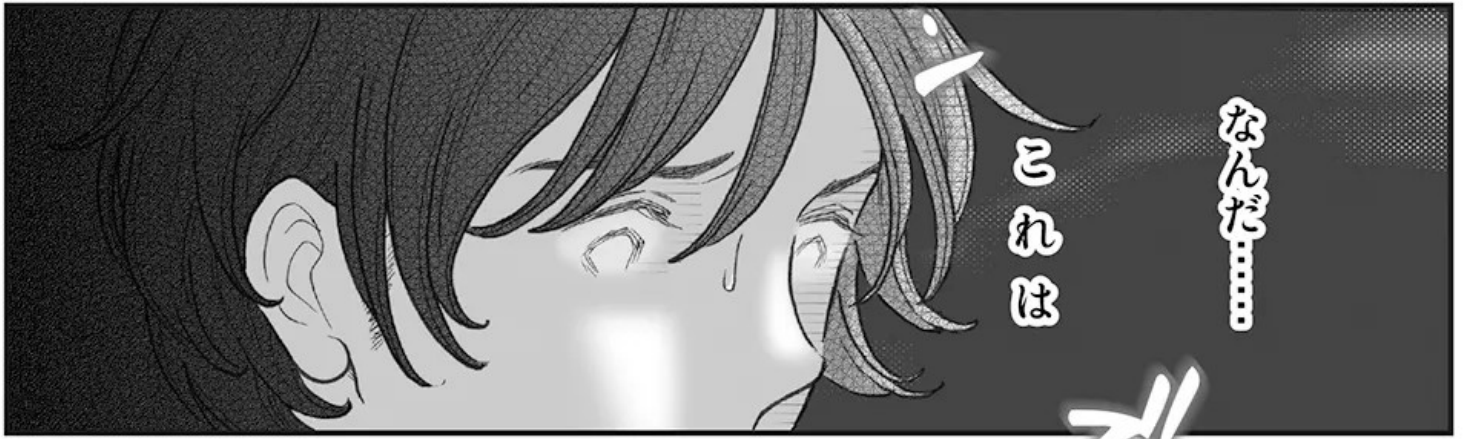
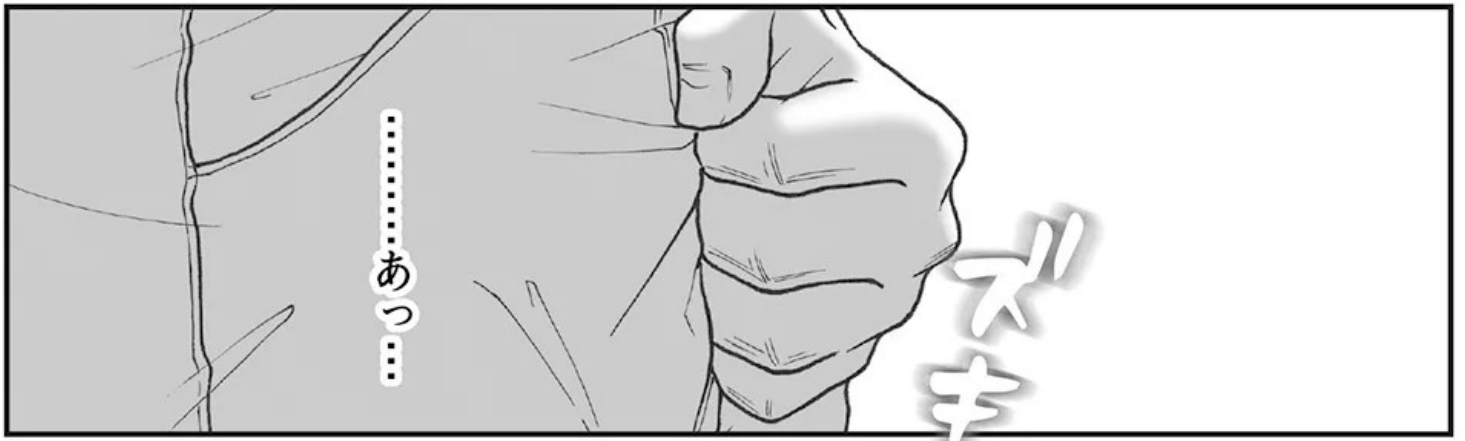
望むところだよ

……なあ?

ユキちゃん

いくときのいつもの声
彼氏に聞かせてやれよ





お前を
愛するって
いうのは
こういう事か
.....



あ.....

スツゲ.....!

ニチユチニ

ユキ.....

今日

気持ちよすぎて

ヤバイ.....ッ

俺の部屋で

俺の前で

他の男と
体を重ね

一緒に快楽に
没入し

恋人同士みたいに
溶けあう時間を
共有する——

金のために
そんな事が
出来る女を

俺は好きに
なっちまった

……ユキ

欲望と快感に
歪んでる
お前の顔

最高に
綺麗だな

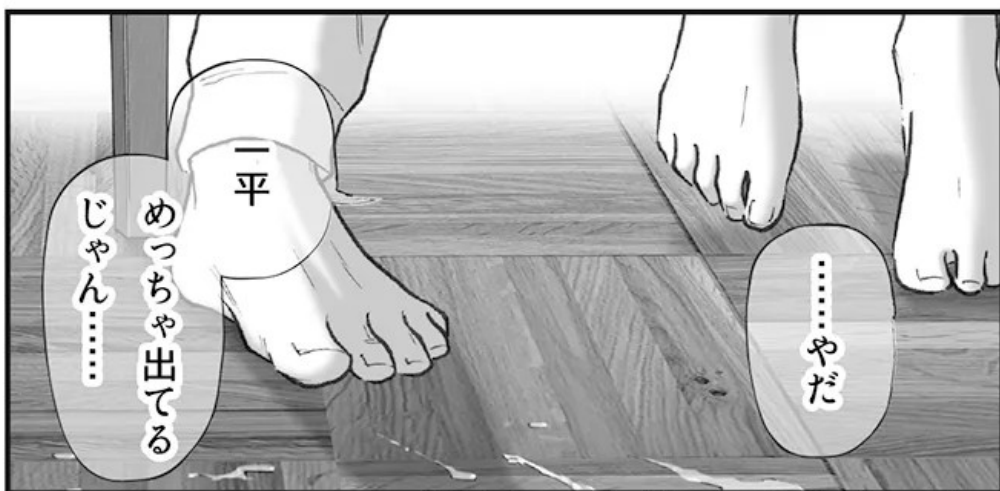
そして

俺も

こんな光景を前に

今までに無いほど
興奮していきり勃った
ちんぽをしごいてる

正真正銘のクズだ



じゃあこれ
ありがとう

今日最高に
気持ちよかった

……ほんと？
よかった

次からも
この部屋？

また連絡
するね……

……わかんない



ガ
タ



一平……



あ……

ユキ……!



ズ



ド

≠



一平……

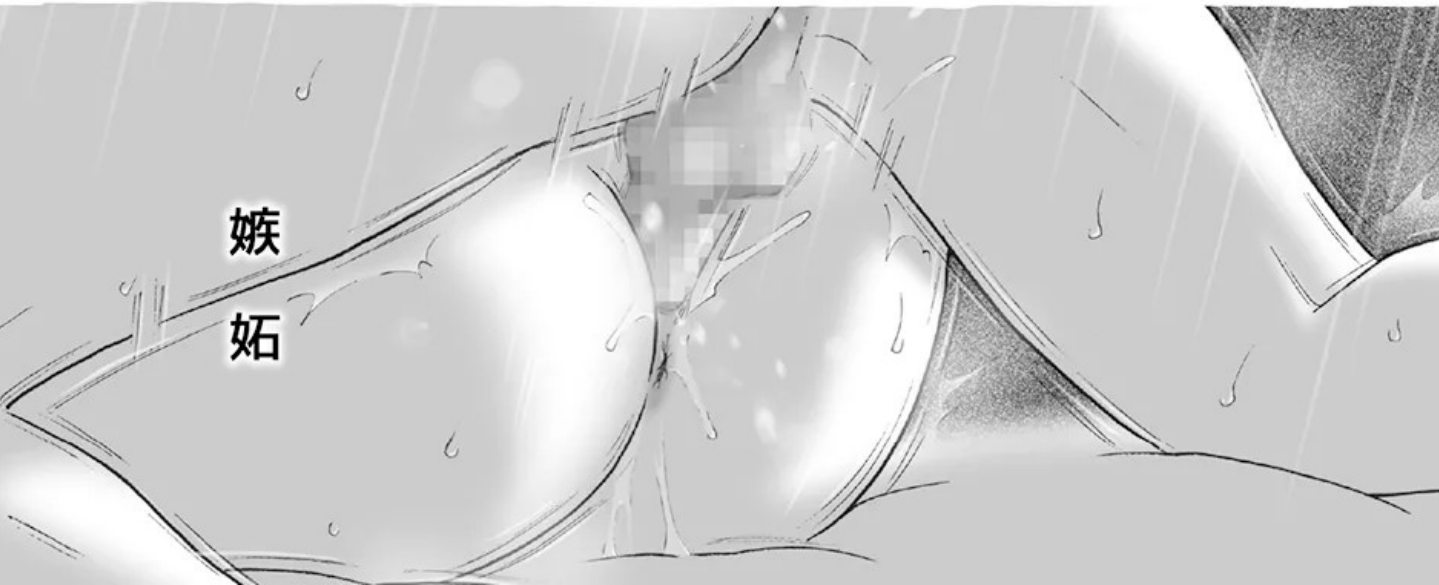
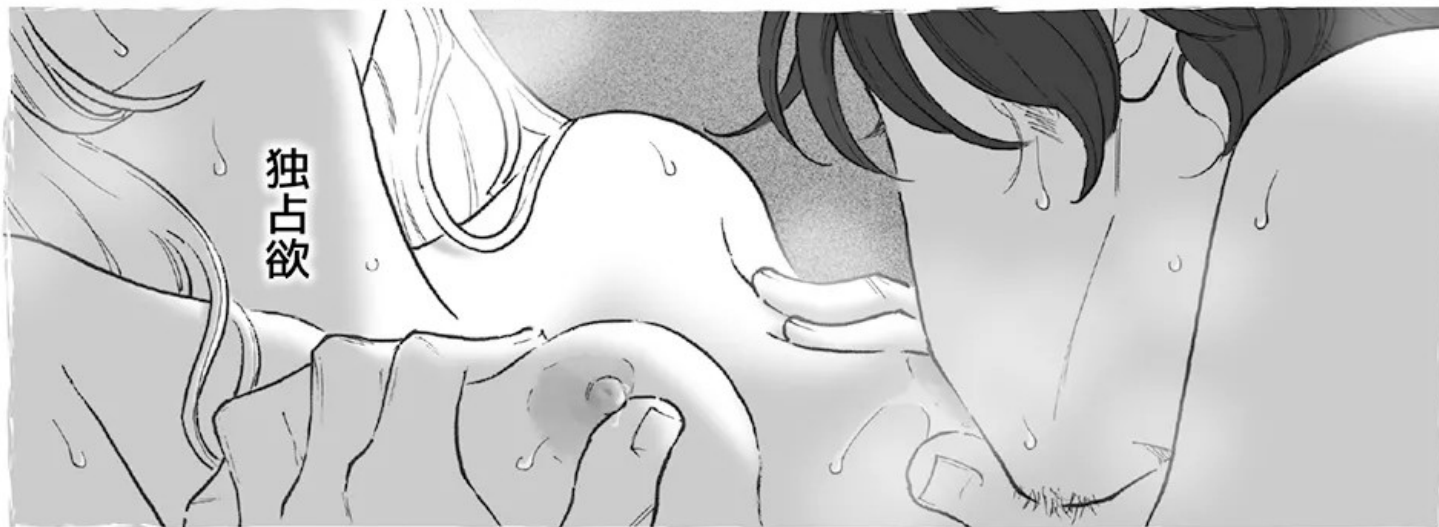
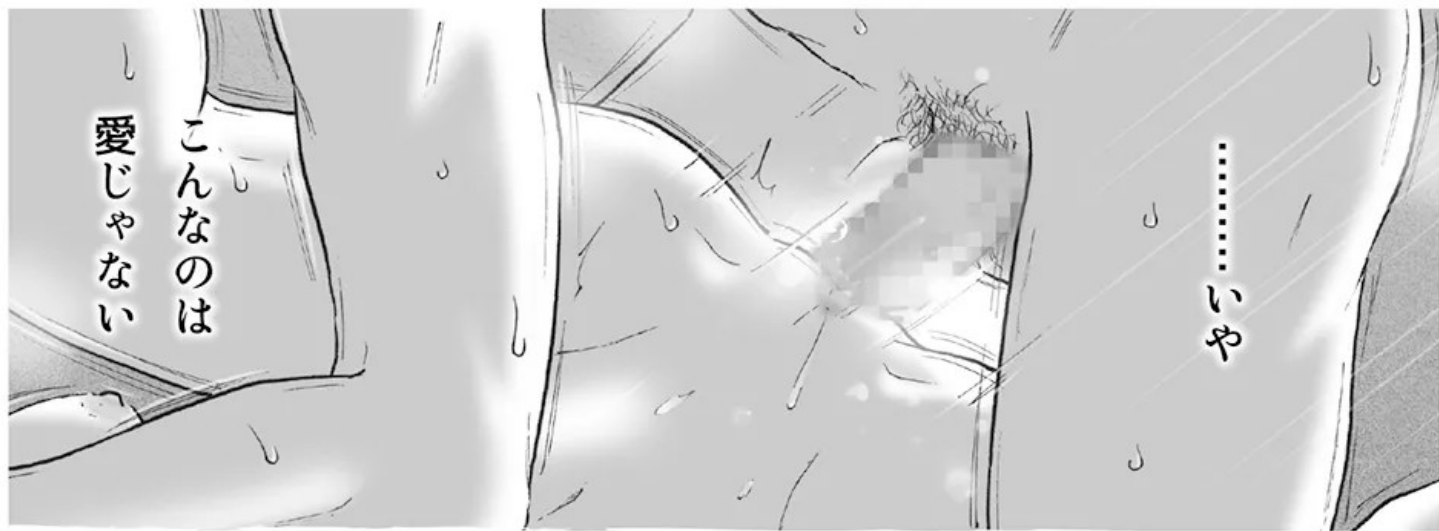
好きだ……！



俺は



ユキの全てを
愛することに
決めた——





ユキ……！

そんなもので
つながる
俺たちは

いびつ
歪かも
知れない

もう……っ



ちようだい
……！

グ
グ

でも



そんな男と女の
形があつても

別にいいじゃ
ないか——

それから夜通し

セックスに
耽りながら
俺とユキは
色んな話をした

俺は自分の
醜い部分を
さらけ出して

今の客の数や料金

体の相性がいい
男の名前や

俺は何番目の
男なのかまで

鬱々とした心の内を
全部ユキに
ぶちまけた

隠し事をしない

干渉し過ぎない

要望には応える

じゃあ全身脱毛
してね

亦金払すから

ヤダ？

じゃあハイジ
だけやって？

……この約束事には
少々後悔したけど

全てを委ねて

言いなりに
なってもいいと
思える相手が
いるのは

いい人生なのかも
知れない

なに
笑ってるの

え……





柘榴 ーざくろー

二〇二一年六月六日 第一刷発行

著者 えろしー

発行者 野崎祐一

発行所 書肆マガジンひとり

東京都品川区東五反田二・四・六・四〇三

<https://blog.goo.ne.jp/wag18470>

buglesoundsagain@goo.jp

[@publisherMH](https://twitter.com/publisherMH)

印刷・製本 (株)栄光

ISBN978-4-910097-06-0

不許無断複製



9784910097060

ISBN978-4-910097-06-0

C0979 ¥900E

定価: 本体 900 円(税別)



1920979009004



書肆_{じよ}マガジンひとり